
'Convert XLS'

ユーザーズガイド

SoftInterface, Inc.

Windows 98/2000/XP

目次

'Convert XLS'ユーザーマニュアル	1
'Convert XLS'とは	1
'Convert XLS'の機能	2
ユーザーインターフェースからの'Convert XLS'の使用	2
'Convert XLS'の基本	2
クイックスタート - ファイルの変換	4
クイックスタート - ファイルに対する特殊処理	5
プログラムオプション	6
変換オプション	6
ファイルタイプの変換	7
変換方式	7
フォルダ全体のファイルを変換	7
Excel 特有の特殊処理	8
ワークシートの一部をコピー、連結	8
ワークシート全体のコピー	9
1枚または数枚のシートをワークブックから削除	11
ワークブックの特定の場所に新しいシートを追加	12
ワークブック内でシートを移動	13
シート名を変更	14
特定の行または列を削除	15
セルの表示形式を変更	15
セルのコンテンツを検索および置換	16
列を行に、行を列に変換	17
ワークブックのパスワードを変更または削除	18
CSV ファイルの操作	19
(CSV)フィールドを引用符で囲む	20
(CSV)フィールドをスペースで囲む/パディング	20
(CSV)カンマを別の区切り記号に変更	21
(CSV)空行を削除	21
(CSV)特定の ROWS を含め、その他をすべて破棄	22
(CSV)特定の COLUMNS を含め、その他をすべて破棄	22

(CSV)制御文字がある場合に削除.....	22
(CSV)余計なカンマを削除.....	22
(CSV)フィールドを固定長にパディング.....	22
TXT、DOC、HTM および RTF ファイルの操作.....	23
特殊処理: 空白行の削除.....	23
特殊処理: ファイルの追加(連結).....	23
特殊処理: 文字列の検索および置換.....	24
特殊処理: 文字の置換.....	25
プログラムの起動、コピー、削除およびその他のファイル操作.....	25
プログラムの起動: cmd.exe の例.....	26
'Convert XLS'の使用に必要なもの.....	27
インストールとアンインストール.....	27
インストール.....	27
アンインストール.....	27
トラブルシューティング.....	28

コマンドラインからの'Convert XLS'の使用 28

コマンドラインの使用.....	28
コマンドラインの作成に役立つヒント.....	29
変換ジョブファイルの指定.....	30
変換タスクの指定.....	30
特殊処理タスクの指定.....	32
すべてのコマンドラインスイッチ.....	36
例: 変換.....	39
1枚のシートを Excel から CSV、TXT、HTML などへ変換.....	39
数枚のシートを Excel から CSV、TXT、HTML などへ変換.....	40
フォルダ全体のファイルを変換.....	41
CSV を XLS ファイルに変換.....	41
例: Excel の特殊処理.....	42
P101 指定したシートのデータを同じまたは別の XLS ファイルにコピー.....	42
P102 シート全体を同じまたは新規の XLS ファイルにコピー.....	44
P103 1枚または指定した範囲のワークシートを削除.....	45
P104 特定の場所に新しいシートを追加.....	46
P105 ワークブック内でシートの位置を移動.....	48
P106 ワークシート名の変更.....	49
P107 特定の行または列を削除.....	49
P108 セルの表示形式を変更.....	50
P109 セルのコンテンツを検索および置換.....	51
P110 シートデータの入れ替え.....	51
P111 XLS ファイルのパスワードを変更または削除.....	52

例: CSV の特殊処理	52
P201 (CSV) フィールドを引用符で囲む	52
P202 (CSV) フィールドをスペースで囲む/パディング	53
P203 (CSV) カンマを別の区切り記号に変更	54
P204 (CSV) 空行の削除	54
P205 (CSV) 特定の ROWS を含め、その他をすべて破棄	55
P206 (CSV) 特定の COLUMNS を含め、その他をすべて破棄	55
P207 (CSV) 制御文字がある場合に削除	56
P208 (CSV) 余計なカンマを削除	56
P209 (CSV) フィールドを固定長にパディング	57
例: TXT、DOC、HTM および RTF の操作	58
P50 (DOC、RTF、HTM、TXT) テキストファイルの追加/連結	58
P55 (DOC、RTF、HTM、TXT) 空行の削除	58
P56 (DOC、RTF、HTM、TXT) 文字列の検索および置換	59
P75 (CSV、TXT) 文字の置換	60
ファイルタイプ定数	62
Excel 変換ファイルタイプの定数	62
特殊処理ファイルタイプの定数	63
付録 A: 変換ジョブおよびログファイルの構造	65
変換ジョブファイルの読み込み、作成方法	65
付録 B: 言語の変更または追加	67
言語の変更または追加	67

'Convert XLS'ユーザーマニュアル

'Convert XLS'とは

'Convert XLS'は、操作が簡単ながら、高機能なファイル変換ユーティリティで、特に MS Excel、テキストおよび CSV (カンマ切り) ファイル用に設計されています。'Convert XLS'を使用すれば、いくつものフォルダに散在するさまざまな種類の大量のファイルを短時間で変換できます。また、Excel を操作する場合、'Convert XLS'を使用して、次のような専門的な処理を行えます。

- 特定のシートデータを 1 つのワークシートから、同じまたは異なるワークブック内の別のワークシートにコピーします。
- フォルダ全体のワークブックから指定のシートの特定データを 1 枚のシートに追加/連結します。
- ワークシート全体 (式を含め) を同じまたは異なるワークブックにコピーし、その位置をワークブック内で指定します。
- ワークブック内の 1 つ、または全範囲のシートを消去します。
- 新しいシートを追加し、挿入する位置を指定します。
- シートをワークブック内の特定の位置に移動します。
- 既存のシート名を変更します。
- その他にも多数の機能があります。

'Convert XLS'は、特に、複雑な変換作業を定期的に行う場合に役立ちます。変換ジョブファイルを保存し呼び出すだけで、'Convert XLS'はすばやくすべての変換タスクとその詳細を記憶します。また、'Convert XLS'はコマンドラインから実行でき、バッチファイルでの使用や他のプログラムからの起動が可能です。

テキスト、CSV および HTML (さまざまなデータベース形式) は、このエクセルコンバータが変換できる多くのフォーマットの一例です。ファイル変換に加え、'Convert XLS'にはさらに向上した機能が含まれ、より使いやすくなりました。たとえば、フォルダ全体やサブフォルダのファイルを指定し、変換することができます。また、変換したファイルを元のフォルダに保存するか、別のフォルダに保存するかを選択できます。

ワークシートの操作に加えて、その他にも多くのテキストファイルへの処理が加わりました。詳細は次のとおりです。

- (***) ファイルを追加 (結合) する。
- (***) 空行を削除する。
- (***) 行を検索、置換する。
- (*.CSV) フィールドを引用符で囲む。
- (*.CSV) フィールドにスペースでパディングする。

- (*.CSV)カンマをその他の区切り記号に変更する。
- (*.CSV)空行を削除する。
- (*.CSV)特定の ROWS を含め、その他をすべて破棄する。
- (*.CSV)特定の COLUMNS を含め、その他をすべて破棄する。
- (*.CSV)制御文字を削除する。
- (*.CSV)余計なカンマを削除する。
- プログラムを起動(実行)する。削除、コピーなどのファイルの操作が含まれます。

*** = *.TXT、*.DOC、*.HTM、*.RTF ファイルタイプ

SoftInterface, Inc.では、常に製品を改良し、向上させています。最新情報や製品へのご要望は、弊社の Web サイトをご覧ください(WWW.SoftInterface.COM)。また、必ず製品を登録して、最新のバージョンを入手し、サポートを受けてください。

'Convert XLS'の機能

コマンドライン(実行時には不可視)および GUI からの実行。完全な柔軟性と完全なパワー。

複雑な変換設定を保存および復元。

MS Excel をインストールしなくても、Excel ファイルをテキスト/CSV/HTML/XML に変換。

シート全体またはシートの一部の移動、削除、追加、およびコピーなど、詳細な Excel 操作特殊処理。単一シートへの Excel ファイルの追加/連結。パスワードの変更、など。

追加、連結、空白行の削除、サードパーティのプログラムの起動、文字列の検索および置換などの特殊なファイル処理。数多くの CSV(カンマ区切り)ファイル操作方式。

再帰サブフォルダをサポート。

ソースファイルや対象ファイル、変換オプションなどは、すべて統一されたパラメータで設定。

バッチを実行途中で停止させたり、後で再開したりすることが可能。

あらゆる言語に対応。

ユーザーインターフェースからの'Convert XLS'の使用

'Convert XLS'の基本

簡単な概念である、変換タスクと変換ジョブの 2 つを説明します。

変換タスク

'Convert XLS'を使用する前に、作業内容を決定する必要があります。処理されるそれぞれのアイテムは、**変換タスク**と呼ばれます。プログラムのユーザーインターフェースの上部で **変換タスク**を指定し、完全に指定したら、**[追加]**ボタンを押します。**変換タスク**を追加すると、そのアイテムがユーザーインターフェースの下部の **変換タスク**一覧に表示されます。

まず **変換タスク**一覧の **変換タスク**をクリックして選択し、編集することもできます。設定を変更したら、上部のツールバーの **[更新]**ボタンをクリックします。

注意: このマニュアルでは、「タスク」という用語がしばしば登場します。これは、**変換タスク**一覧のそれぞれの行に表示される作業を指します。

タスクを指定するには、まず **変換** または **特殊処理** タスクを選択します。ファイル変換にはファイルとファイル形式の変更が必要です (例: XLS から CSV)。ファイルの内容を変更するには、[ファイルに対する特殊処理] を選択します。

[変換] または [特殊処理] のどちらを選んでも、オリジナルファイルと対象ファイルを指定します。オリジナルファイルは既存のファイル (または先の変換タスクで作成されるファイル) で変換の入力または特殊処理タスクに使用されます。対象ファイルは、オリジナルファイルに対し実行されたアクションにより作成されるファイルです。

変換ジョブ

変換ジョブとは、**変換タスク**一覧で指定したり追加した **変換タスク**を指します。変換ジョブは、保存、復元、編集が可能ですので、作業時間を大幅に短縮できます。変換ジョブの保存および復元については、[ファイル]メニューをご覧ください。

タスクを1つにまとめる

単純な変換ジョブも複雑な変換ジョブも、ユーザーインターフェースから実行できます。変換ジョブを実行するには、まず、ユーザーインターフェースの上部で変換ジョブを指定し、[追加] ボタン (ツールバーの上部) をクリックして変換タスク一覧に追加します。

タスク一覧に1つ以上のタスクあれば、[変換] ボタン (ツールバーの上部) を押し、変換ジョブを実行します。

1つ以上の変換タスクからなる変換ジョブも作成でき、そのジョブは保存、復元、編集が可能です。保存したら、その変換ジョブをコマンドラインから指定および実行し、複雑なタスクを簡単に自動化することもできます。変換ジョブの保存および復元については、[ファイル]メニューをご覧ください。

変換ジョブの編集

変換ジョブにある **変換タスク**の編集や削除はとても簡単です。

タスクを編集するには、**変換タスク**一覧のタスクをハイライト (マウスでクリック) します。タスクを選択したら、変換プロパティが画面上部 3 分の 1 に表示されます。必要に応じて変換タスクプロパティを変更し、[更新] ボタン (または ALT+U) を押します。これで変換タスク一覧への変更が保存されます。[更新] を押さないと、変更が失われます。

前に実行した変換ジョブを作業している場合、再度そのジョブを実行する前に[巻き戻し] ボタンをクリックし、ジョブをリセットします。

タスクを削除するには、タスク一覧でそのタスクをハイライトし、[削除] ボタン (または ALT+D) を押します。

変換ジョブの保存と復元

[ファイル]メニュー (または CTRL+S) の[保存] アイテム、またはツールバーの[開く] ボタンの隣にあるドロップダウンの矢印で、**変換ジョブ**を保存し、再度使用できます。

変換ジョブを開くのはとても簡単です。[ファイル]>[変換ジョブを開く]、CTRL+O ショートカット、またはツールバーの[開く] ボタンの隣にあるドロップダウンの矢印をクリックして、[変換ジョブを開く]を選択します。

新しい変換ジョブの作成

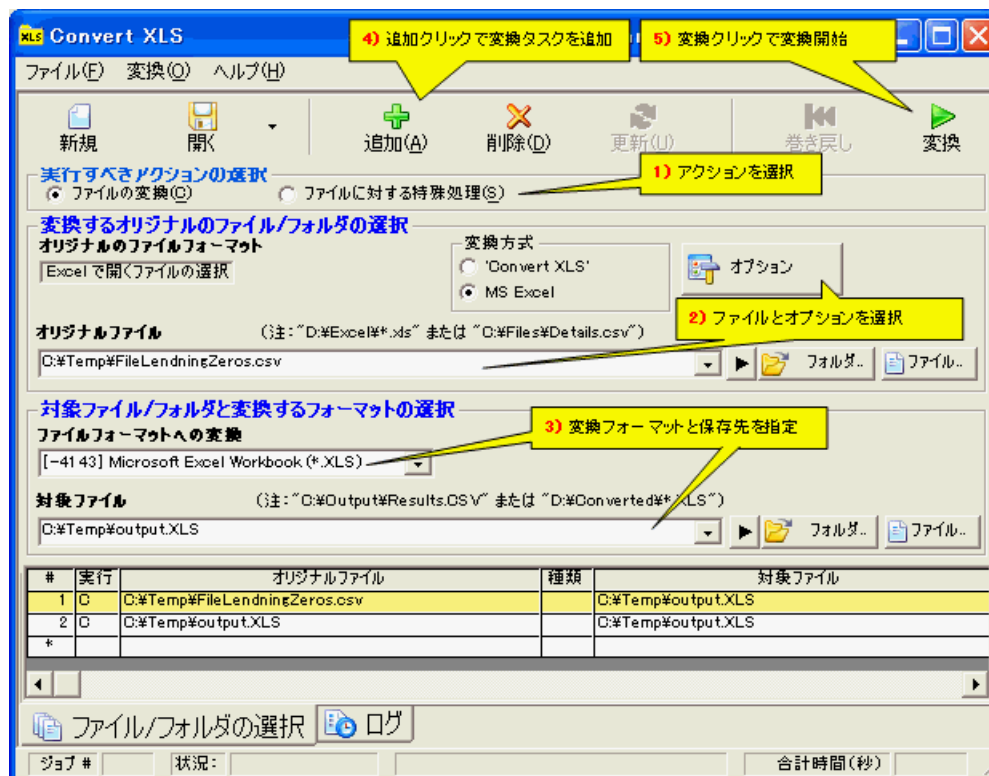
新しく開始する場合、ツールバーの[新規] ボタンをクリックするか、[ファイル]メニューの[新規変換ジョブ]を選択するか、CTRL+N を押して、新しい変換ジョブを開始できます。

注意: 新しい変換ジョブを作成すると、変換タスク一覧のアイテムがすべて消去されます。

ログを変換ジョブとして保存

ログには変換中に発生したあらゆる問題ファイルが含まれます。ログに問題が表示された場合、変換ジョブとしてそれらを保存し、あとで別の方法で処理できます。[ログを変換ジョブとして保存] は [ファイル]メニューにあり、[開く] ボタンの隣にあるドロップダウン矢印をクリックしても選択できます。

クイックスタート - ファイルの変換



すべての変換ジョブで、次の4つの手順を行う必要があります。

変換または特殊処理のいずれかを選択します。

'MS Excel'または'Convert XLS'のいずれかの変換方式を選択します。MS Excelを選択すると、MS Excelで開けるすべてのファイルを選択できます。'Convert XLS'を選択する場合、オリジナルファイルタイプを選択します。

[ファイル] ファイル.. または [フォルダ] フォルダ.. のドロップダウンリストから、変換するオリジナルのファイルを選択します。フォルダを選択した場合、“D:\ORIGINALPATH*.EXTENSION”の形式でファイルを完全に指定する必要があります。EXTENSIONは、変換するフォルダにあるファイルの拡張子です(例: D:\Sales*.xls)。

オリジナルファイルに Excel を指定した場合、次に、変換するシートを名前または番号で選択します。また、[オプション]ボタンをクリックして、変換後のファイルにセルの数値や式を含めるのかも指定します。範囲、デリミタ文字、区切り文字を指定できる場合もあります。

[ファイルフォーマットへの変換]ドロップダウンから、オリジナルファイルを変換する対象フォーマットを選択します。

複数のファイルを変換する場合、ボックスをクリックし、サブフォルダの変換を選択できます。このオプションは、変換するフォルダが選択されたときのみ有効です。

変換後のファイルをやフォルダを保存する対象の場所を指定します。対象フォルダが存在しない場合、Convert XLSが自動的に対象フォルダを作成します。変換対象にフォルダ全体のファイルを選択した場合、

“D:\ORIGINALPATH*.EXTENSION”の形式でファイルを完全に指定する必要があります。EXTENSIONは、対象ファイルの拡張子です

(例: D:\Sales\August*.xls)。

ツールバーの[追加]ボタンを押し、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換ジョブに変換タスクを追加するには、1から4の手順を必要に応じて繰り返します。

変換ジョブを開始するには、[変換]ボタンを押します。

洗練された[変換ジョブ]を作成するには、1 から 4 の手順を必要なだけ繰り返します。変換ジョブは保存、修復、編集が可能です。変換ジョブは、コマンドラインから指定し、実行することもできます。

変換タスク一覧に登録されているタスクの変更を行う場合、そのタスクをクリックしてハイライトすると、登録されているタスクの内容がテキストボックスに表示されます。必要な変更を加え、[更新]ボタンをクリックし、変更を保存します。変換タスク一覧の既存のタスクは上書きされるので注意してください。新しいタスクとして保存したい場合、[追加]をクリックすると元の内容は上書きされず、変換タスク一覧に新規のタスクが追加されます。

「クイックスタート - ファイルに対する特殊処理」を参照してください。

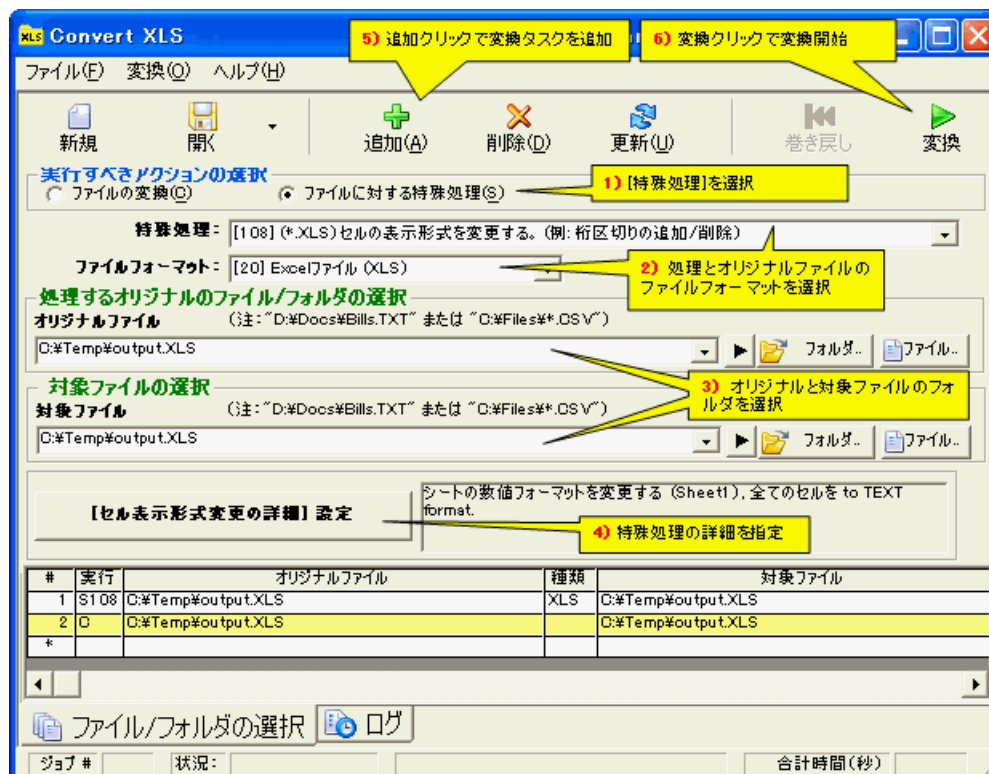
クイックスタート - ファイルに対する特殊処理

[ファイルに対する特殊処理]では、さまざまな特殊処理オプションを選択し、ファイルに適用できます。特殊処理には次のようなものがあります。

Excel ファイルの操作

- CSV ファイルの操作
- テキスト、RTF、HTML、MS Word ファイルの操作
- 他のアプリケーションの実行

1 つ以上の変換タスクからなる変換ジョブも作成でき、そのジョブは保存、復元、編集が可能です。保存したら、その変換ジョブをコマンドラインから指定および実行し、複雑なタスクを簡単に自動化することもできます。



「クイックスタート - ファイルの変換」を参照してください。

プログラムオプション

[ファイル]>[オプション]メニューを選択すると、このプログラム全般に関するオプションの設定ダイアログボックスが表示されます。ここでは、次の設定を行います。

オプションで、処理の終了後にオリジナルファイルを削除

Excel ファイルの処理に必要なパスワードの入力

全般的なオプション

処理の終了後にオリジナルファイルを削除

このオプションでは、処理の終了後にオリジナルファイルを削除します。オリジナルファイルと対象ファイルが同じ場合、ファイルは削除されません。

注意: 処理後にファイルを削除する場合、十分に注意してください。すべての重要なファイルのバックアップがあることを確認してください。

パスワード

ファイルの処理中、オリジナルまたは対象ファイルにアクセスするのに必要なパスワードを指定できます。注意: Excel のワークブックのパスワードを変更するには、特殊処理 111 があります。

変換オプション

[ファイルの変換]を選択した場合、 [オプション]ボタンを押し、さまざまなオプションを選択できます。

全般

[値]または[式と値] (もしくは両方) を選択します。オリジナルファイルが Excel の場合、エクスポートするシートと範囲も選択します。複数のシートを持つ XLS から他のファイルタイプに変換する場合、1 つのファイルを作成するか、複数のファイルを作成するかを指定できます。

区切り文字

XLS ファイルタイプに変換したり、XLS ファイルタイプから変換したりする場合、使用するデリミタ文字や区切り文字を指定できます。これは、文字区切りファイルの解析中にプログラムが探す文字を指定します。

注意: 'Convert XLS'変換方式を使用している場合、この文字は CSV ファイルがどのように作成されるかも指定します。XLS から CSV に変換する場合、区切り文字にはどの文字でも指定できます。

テキストファイル

このオプションは、'Convert XLS'変換方式でのみ使用します。

XLS から TEXT へ変換: ここでは、オプションとして Excel ファイルの列を適切な幅に自動調整します。そのため、テキストファイルに変換する場合でも、すべてのデータが保持されます。そうしない場合、Excel ファイルに表示されていないデータは切り捨てられます。

固定幅テキストファイルから Excel ファイルへ変換: ここでは、変換するテキストファイルの列幅を指定できます。指定した最終列より上の列のデフォルトの列幅は、最終列の列幅と同じです。よって、50 列が同じサイズの場合、50 すべてを指定するのではなく、最初の行だけを指定します。

テキストファイルから XLS、CSV ファイルへの洗練された変換は、Softinterface の'TXL Wizard'という別のプログラムで実行できます。

ファイルタイプの変換

操作方法を簡単に理解するには、「クイックスタート-ファイルの変換」をご覧ください。

'Convert XLS'は、1つのファイルでも、フォルダ全体でも、XLS からあらゆるファイルタイプへ、また、あらゆるファイルタイプから XLS に変換できます。MS Excel で開けるオリジナルファイルタイプであれば動作します。

変換方式

現在、変換方式は2つあります。

'Convert XLS'

MS Excel

選択する方式は、特に指定する**オリジナル**のファイルタイプに依存します。次の表をガイドとして使用してください。

'Convert XLS'方式は高速ファイル変換に最適です。Convert Excel 方式を使用すれば、MS Word ファイルを変換する場合でも MS Excel をインストールする必要はありません。この方式は Enterprise Edition にのみ含まれています。

MS Excel での変換では、'Convert XLS'方式では変換できないファイルフォーマットの変換が可能です。MS Excel での変換は、MS Excel で開いて保存できるすべてのファイルフォーマットに対応します。

変換方式	オリジナルのファイルタイプ	対象ファイルタイプ
Convert XLS	XLS、テキスト、UNICODE テキスト、CSV、あらゆる区切り文字付きテキスト	CSV、XLS、TXT、XML
MS Excel	MS Excel で開くことができるファイル	MS Excel で保存できるファイル

フォルダ全体のファイルを変換

変換タスクに複数のファイルを指定するには、必ず[オリジナルファイル]入力ボックスにワイルドカードを指定します。

オプションでオリジナルのフォルダに保存するか、新しいフォルダに保存できます。オリジナルのフォルダに保存するには、[オリジナルフォルダへの保存]チェックボックスをチェックします。

サブフォルダを実行するには、必ず[サブフォルダで実行]チェックボックスをチェックします。

たとえば、D:¥MyXLSFiles¥とそのサブフォルダのすべてのファイルを CSV から XLS に変換する場合、オリジナルのファイルタイプに次のように入力します。

D:¥MyXLSFiles¥*.CSV

次に、[サブフォルダで実行]チェックボックスと[オリジナルフォルダへの保存]チェックボックスを選択します。[追加]ボタンをクリックして、[変換]ボタンをクリックします。ファイル/フォルダ数によって、変換タスクは数分から不特定の時間がかかることがあります。

Excel 特有の特殊処理

ワークシートの一部をコピー、連結

この特殊処理で、特定のデータ(数値/式)を、あるワークシートから同じまたは異なるワークブック内の別のシートにコピーできます。

注意: フォルダ全体の Excel ファイル(オリジナルファイル)を指定すると、そのデータを 1 つのシート(対象ファイル)に連結/追加できます。フォルダ全体の Excel ファイルを指定する場合、次のようになります。

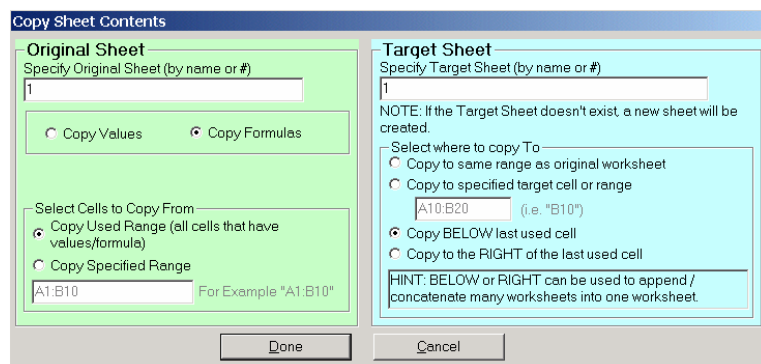
C:¥MyFolder¥ExcelFiles¥*.XLS

ヒント: コピー先の範囲を限定せず、データのコピーを開始する場所を指定するには、1 つのセルを指定します(例: "B10")。ここで指定したセルからすべてのデータのコピーが始まります。

ある Excel ワークブックのワークシートの一部を、同じまたは別のワークブックへコピーするには、次の手順を行います。

特殊処理ドロップダウンリストから、特殊処理[[101] (*XLS) 指定されたデータをシートから同じまたは別の XLS ファイルにコピーする。]を選択します。このファイルフォーマットは、自動的に*.XLS に設定されます。

次に、オリジナルと対象ファイルを選択します。対象ファイルが存在しない場合、Convert XLS が自動的に対象ファイルを作成します。対象ファイルがオリジナルファイルと同じで、新しいシート名を指定した場合、オリジナルファイルのワークブックに新しいシートが作成されます。フォルダ全体を変換するには、ワイルドカード形式を使用します(例: d:¥XLSFiles¥*.XLS)。オリジナルファイルと対象ファイルの情報を追加する場合、[[シートコピーの詳細]設定]ボタンをクリックします。



[オリジナルシート]には、コピーするシートを名前、または番号で指定します。また、値、式をコピーするかどうかも指定します。次にすべてのデータをコピーするか、コピー範囲を指定するかを設定します。

[対象シート]に同じシート名を指定すると、データはそのシートにコピーされます。別の名前を指定すると、Convert XLSは、指定したワークブックに新しいワークシートを作成します。4 つの[コピー先の指定]オプションから選択します。対象ファイルがすでに存在する場合、上書きされます。

[追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1 から 4 の手順を必要なだけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。

[変換]ボタンをクリックし、処理を実行します。

複数の変換タスクからなる変換ジョブは、保存、復元、編集が可能です。保存したら、その変換ジョブをコマンドラインから指定、実行できます。

追加の詳細

オリジナルシート: データをコピーするシート名または番号を指定します。

式のコピー: ワークシートから式や値をコピーするかを指定するのに使用します。式をコピーするには“TRUE”を、値をコピーするには“FALSE”を使用します。

シート名をコピー: 新しく作成するシートにオリジナルと同じ名前を付ける場合にチェックします。[シート名をコピー] オプションは、オリジナルファイルとは別の対象ファイルを指定し、新しいワークブックを作成する場合にのみ表示されます。これは、ワークブックファイル(XLS)のシートには、一意の名前しか付けられないためです。一般的に、このパラメータは、[オリジナルシート] で、シートを番号で指定した場合に使用します。

[**コピー範囲の詳細指定**] は、コピー元のセルを指定する場合に選択します。選択されていない場合、使用されている範囲がコピーされます。一般的な Excel の構文が使用できます。たとえば、「A1:B10」、「J5:K20」などです。ここが空白の場合、ワークシートの使用されているすべての範囲がコピーされます。

[**対象シート**] では、データをコピーするシートの名前や番号を指定します。

オリジナルワークシートと同じ範囲にコピーする: オリジナルシートと同じ範囲でデータをコピーする場合に選択します。

[**対象シートのセルまたは範囲の詳細を指定**] は、コピー先のセルを指定する場合に選択します。1 つのセル(例: “B10”)を指定すると、そのセルからデータのコピーが始まります。コピー元の範囲より小さい範囲を指定すると、データの一部が削除されます。コピー元の範囲より大きな範囲を指定すると、対象シートに無効なデータがコピーされます。一般的な Excel の構文が使用できます。たとえば、「A1:B10」、「J5:K20」などです。このパラメータが空白の場合、A1 のセルから始まります。

[**最後にコピーしたセルの下にコピー**] を指定すると、使用されている最後の行の下にデータを連結、追加できます。

[**最後にコピーしたセルの右にコピー**] を指定すると、使用されている最後の列の隣にデータを連結、追加できます。

ワークシート全体のコピー

ワークシート全体を同じ Excel ワークブックまたは新しいワークブックにコピーするには、次の手順を行います。

特殊処理ドロップダウンリストから、特殊処理[[102] (*XLS)シート全体を同じまたは新規の XLS ファイルにコピーする。]を選択します。このファイルフォーマットは、自動的に*.XLS に設定されます。

次に、オリジナルと対象ファイルを選択します。対象ファイルは、オリジナルファイルと同じワークブックにもできます。または、対象ファイルが存在しない場合、Convert XLS が自動的に対象ファイルを作成します。

[[シートコピーの詳細]設定]ボタンをクリックします。

シート全体をコピー

オリジナルシート
 オリジナルシート名または番号の指定

 例: "予算案、経費表" または "1,5,10" または "*"

対象シート

コピー先の指定

ワークブックの一番前にコピーする
 ワークブックの一番後にコピーする
 次のシートの前にコピーする

 次のシートの後にコピーする

名前を変更してコピー (空白は元のシート名を使う)

シート名が重複した場合の動作

コピーしたシートに似た別の名前を付ける。
 既存のシートを 'オリジナル' で上書きする。
 重複した名前のシートは処理しない。
 重複がある場合は中止してエラーを報告する。

OK(O) キャンセル(C)

コピー元のオリジナルシートと対象ワークブックでのコピー先を選択します。

シートを1枚コピーする場合、新しいシートにオリジナルと異なる名前を付けるかどうかを指定するオプションを選択できます。このオプションはシートを1枚コピーする場合のみ使用でき、複数のシートを指定する場合は表示されません。複数のシートをコピーする場合、[シート名が重複した場合の動作]の設定に基づいて、シート名が変更されます。

Convert XLS では、新規に作成されたシート名を自動的に変更し、上書きできます。また、名前の重複したシートを処理せず、実行を中止し、重複したシート名のページがあることをエラーログで報告します。

[追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1から4の手順を必要なだけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。

[変換]ボタンをクリックし、処理を実行します。

追加の詳細

オリジナルシート: データをコピーするシート名または番号を指定します。

注意: シート名に番号を使用した場合 (例: "1234"), 名前を引用符で囲む必要があります。たとえば、シートに"32"という名前を付ける場合、"32"というふうに名前を二重引用符で囲んで[オリジナルシート]に指定します。すると、Convert XLS では、それがシート番号でなく名前であることを認識します。ファイルを参照して選択する場合でも、手動で引用符を追加する必要があります。

[対象シート]では、新しいコピーが作成される場所を指定します。ワークブックの**一番前**、ワークブックの**一番後**、または、コピーを作成したいシートの**前**や**後**が選択できます。

シートが重複した場合の動作: シート名が重複している場合の処理を指定します。シート名の重複は、オリジナルシートがすでに対象ファイルに存在する場合発生します。重複している場合、次を選択できます。

シートをコピーし、新規のシートに似たような別の名前を付ける。

既存のシートを上書きする。

このシートは処理せず、コピーしない。複数のシートが指定された場合、次のシートに進みます。

重複が見つかった場合は処理を中止する。

[名前を変更してコピー]では、オリジナルと異なる名前を付けられます。1つのシートをコピーする場合にのみ有効です。

[シートが重複した場合の動作]では、一度に複数のシートをコピーする場合に、シート名の付け方を指定できます。コピーでは、名前に番号を追加してシートに似たような名前を付けます。たとえば、Monthly(2)のようになります。上書きでは、オリジナルシートと同じ名前が付けられた対象シートのデータを上書きし、[対象シート]オプションで指定した場所にそのシートを移動します。処理しないでは、名前が重複しているシートをスキップします。中止では、コピージョブの実行を中止し、ログにエラーを報告します。

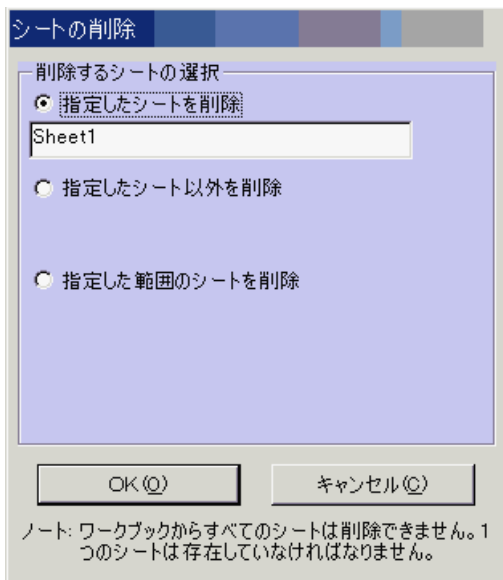
1 枚または数枚のシートをワークブックから削除

1枚または数枚のシートを Excel ワークブックから削除するには、次の手順を行います。

特殊処理ドロップダウンリストから、特殊処理[[103] (*XLS) 1 枚または数枚のシートを削除する。]を選択します。このファイルフォーマットは、自動的に*XLS に設定されます。

次に、オリジナルと対象ファイルを選択します。オリジナルと対象ファイルが同一の場合、シートはオリジナルのワークブックから削除されます。オリジナルと対象ファイルが別の場合、新しい対象ワークブックが作成されます。

[[シート削除の詳細]設定]ボタンをクリックします。



[指定したシートを削除]、[指定したシート以外を削除]、[指定した範囲のシートを削除]の3つのオプションから1つ選択します。シート名や番号を入力することも、シートを参照することもできます。

ワークブックからすべてのシートを削除することはできません。削除後、シートを最低1枚は残す必要があります。

[追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1から3の手順を必要だけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。

[変換]ボタンをクリックし、処理を実行します。

追加の詳細

この特殊処理では、1枚または数枚のワークシートを削除できます。

[指定したシートを削除]は、シートを 1 枚削除する場合に使用します。

[指定したシート以外を削除]は、ワークブックに残すシートを指定する場合に使用します。他のシートはすべて削除されます。

[指定した範囲のシートを削除]は、シートを 1 枚削除するか、削除するシートの範囲の始まりを指定する場合に使用します。注意: 範囲指定した番号も削除対象です。

また、この特殊処理は、1 つのワークブックまたはフォルダ(およびサブフォルダ)全体のワークブックの削除にも使用できます。ワークブックにはシートを最低 1 枚は残す必要があります。つまり、ワークブックのすべてのシートを削除することはできません。

注意: シート名に番号を使用した場合、名前を引用符で囲む必要があります。たとえば、シートに 32 という名前を付ける場合、"32"というふうに名前を引用符で囲んで[オリジナルシート]に指定します。すると、Convert XLS では、それがシート番号でなく名前であることを認識します。ファイルを参照して選択する場合でも、手動で引用符を追加する必要があります。

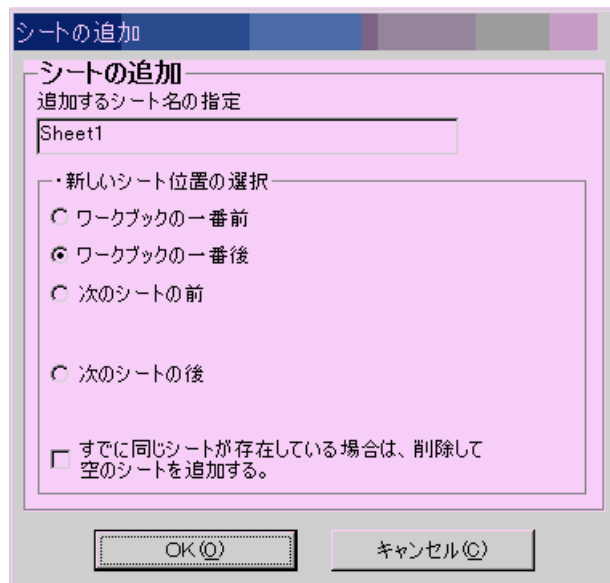
ワークブックの特定の場所に新しいシートを追加

シートを 1 枚 Excel ワークブックに追加するには、次の手順を行います。

特殊処理ドロップダウンリストから、特殊処理[[104] (*XLS) 指定された場所のワークブックに新しいシートを追加する。]を選択します。このファイルフォーマットは、自動的に*.XLS に設定されます。

次に、オリジナルと対象ファイルを選択します。オリジナルと対象ファイルに同じ場所を指定する場合、そのページはオリジナルファイルに作成されます。オリジナルと対象ファイルが別の場合、対象ファイルとして、オリジナルのすべてのページと新しく作成されたシートを含む新しいワークブックが作成されます。

[[シート追加の詳細]設定]ボタンをクリックします。



シート名と場所を指定します。

[すでに同じシートが存在している場合は、削除して空のシートを追加する]をチェックすると、新しく作成された空のシートを既存のシートに置き換えることができます。

[追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1 から 3 の手順を必要だけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。

[変換]ボタンをクリックし、処理を実行します。

追加の詳細

この特殊処理では、新しいワークシートを1つまたは複数のワークブックに追加できます。

追加するシート名は、追加するシートの名前です。必須ではありません。

シートを上書きする: このオプションをチェックした場合、**対象シート**がすでに存在していると、**オリジナルシート**がその対象シートを上書きします。このパラメータが選択されていない場合、対象シートがすでに存在していてもなにも起こりません。

[次のシートの前]は、ワークシートを同じワークブックに追加する場合にのみ使用します(オリジナルファイル = 対象ファイル)。このシートの前にシートが追加されます(名前または番号)。

[次のシートの後]は、ワークシートを同じワークブックに追加する場合にのみ使用します(オリジナルファイル = 対象ファイル)。このシートの後ろにシートが追加されます(名前または番号)。

注意: オリジナルファイルと対象ファイルが同一の場合、これらの位置の情報(シートの前またはシートの後)が使用されます。そうしない場合、位置の情報は無視されて新しいワークブックファイルが作成され、対象ファイルとして保存されます。

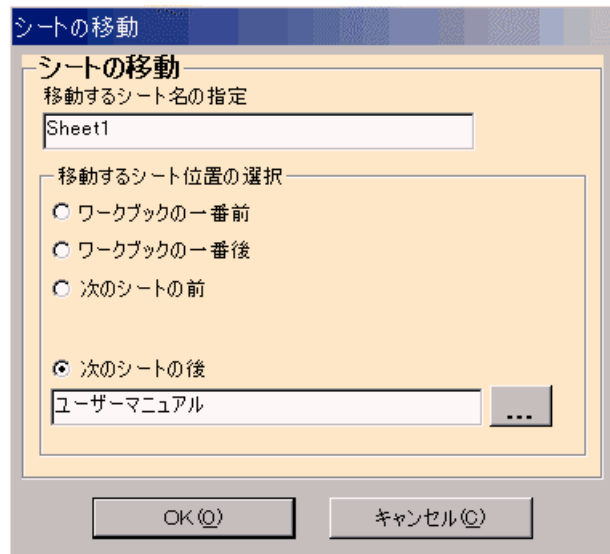
ワークブック内でシートを移動

1つのExcelワークブック内でシートを移動したり、ワークブックの特定のページを新しい場所にコピーしたりするには、次の手順を行います。

特殊処理ドロップダウンリストから、特殊処理[[105] (*XLS)ワークブック内でシートを移動する。]を選択します。このファイルフォーマットは、自動的に*.XLSに設定されます。

次に、オリジナルと対象ファイルを選択します。対象ファイルが存在しない場合、Convert XLSが自動的に対象ファイルを作成します。対象ファイルとオリジナルファイルが同一の場合、オリジナルファイル内でシートが移動します。対象ファイルに新しい名前を指定すると、特定のページを含む新しいワークブックが指定した場所に作成されます。

[[シート移動の詳細]設定]ボタンをクリックします。



移動するシートは、オリジナルワークブック内にある必要があります。

シートを移動する場所を選択します。

[追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1から4の手順を必要だけ繰り返して、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。

[変換]ボタンをクリックし、処理を実行します。

追加の詳細

この特殊処理では、同じワークブック内でワークシートを移動できます。

[移動するシート名]は、移動するシートの名前です。必須です。

注意: シート名に番号を使用した場合、名前を引用符で囲む必要があります。たとえば、シートに 32 という名前を付ける場合、“32”というふうに名前を引用符で囲んで[オリジナルシート]に指定します。すると、Convert XLS では、それがシート番号でなく名前であることを認識します。ファイルを参照して選択する場合でも、手動で引用符を追加する必要があります。

[次のシートの前]を指定すると、このシートの前にシートが移動します(名前または番号)。

[次のシートの後]を指定すると、このシートの後にシートが移動します(名前または番号)。

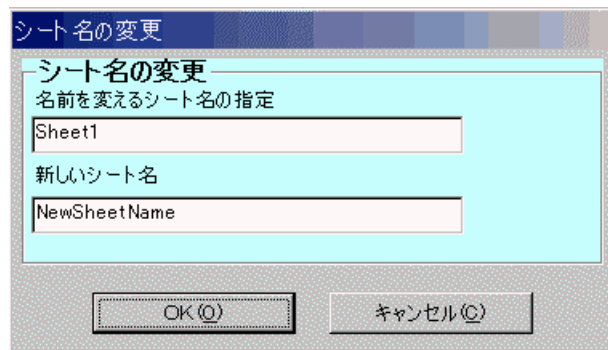
シート名を変更

1 つの Excel ワークブック内でシート名を変更したり、ワークブックのページの名前を変更してコピーを作成したりするには、次の手順を行います。

特殊処理ドロップダウンリストから、特殊処理[[106] (*XLS)シート名を変更する。]を選択します。このファイルフォーマットは、自動的に*.XLS に設定されます。

次に、オリジナルと対象ファイルを選択します。対象ファイルとオリジナルファイルが同一の場合、オリジナルファイルのシート名が変更します。対象フォルダが存在しない場合、'Convert XLS'がオリジナルワークブックのページ名を変更し、コピーを作成します。

[[シート名変更の詳細]設定]ボタンをクリックします。



名前を変更するシートは、オリジナルワークブック内にある必要があります。

[追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1 から 4 の手順を必要なだけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。

[変換]ボタンをクリックし、処理を実行します。

追加の詳細

注意: シート名に番号を使用した場合、名前を引用符で囲む必要があります。たとえば、シートに 32 という名前を付ける場合、“32”というふうに名前を引用符で囲んで[オリジナルシート]に指定します。すると、Convert XLS では、それがシート番号でなく名前であることを認識します。ファイルを参照して選択する場合でも、手動で引用符を追加する必要があります。

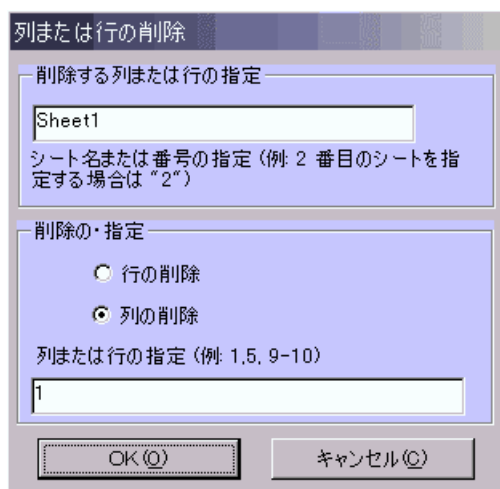
特定の行または列を削除

特定の行または列をワークブックから削除するには、次の手順を行います。

特殊処理ドロップダウンリストから、特殊処理[[107] (*XLS) 列または行を指定して削除する。]を選択します。このファイルフォーマットは、自動的に*.XLS に設定されます。

次に、オリジナルと対象ファイルを選択します。対象ファイルとオリジナルファイルが同一の場合、オリジナルファイルで削除されます。対象フォルダが存在しない場合、'Convert XLS'がオリジナルワークブックのコピーを作成し、ページを変更します。

[[行/列削除の詳細]設定]ボタンをクリックします。



変更するシートは、すでにオリジナルワークブック内にある必要があります。

削除する行または列を選択し、指定します。列は文字ではなく番号で指定する必要があります。たとえば、列 A - D を削除するには、1 - 4 と指定します。

[追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1 から 4 の手順を必要なだけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。

[変換]ボタンをクリックし、処理を実行します。

追加の詳細

注意: シート名に番号を使用した場合、名前を引用符で囲む必要があります。たとえば、シートに 32 という名前を付ける場合、"32"というふうに名前を引用符で囲んで[オリジナルシート]に指定します。すると、Convert XLS では、それがシート番号でなく名前であることを認識します。ファイルを参照して選択する場合でも、手動で引用符を追加する必要があります。

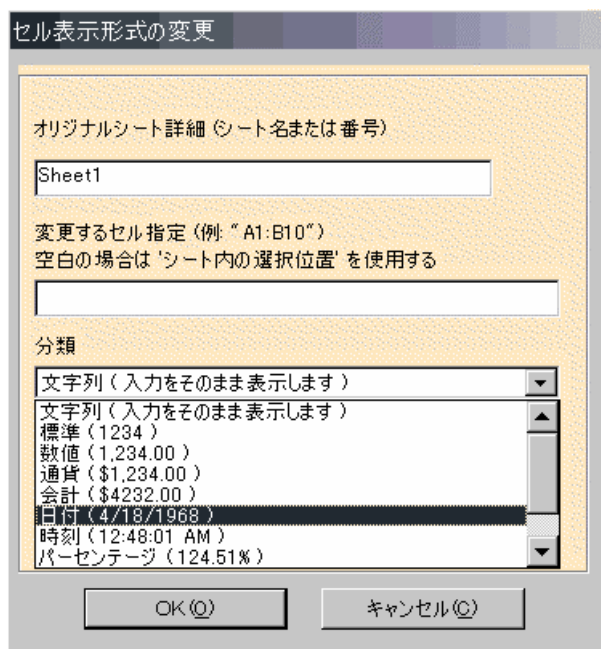
セルの表示形式を変更

セルに適用された形式を変更するには、次の手順を行います。

特殊処理ドロップダウンリストから、特殊処理[[108] (*XLS) セルの表示形式を変更する。]を選択します。このファイルフォーマットは、自動的に*.XLS に設定されます。

次に、オリジナルと対象ファイルを選択します。対象ファイルとオリジナルファイルが同一の場合、オリジナルシートの形式が変更します。対象フォルダが存在しない場合、'Convert XLS'がオリジナルワークブックのコピーを作成し、形式を変更します。

[[セル表示形式変更の詳細]設定]ボタンをクリックします。



形式を変更できるシートは既存のシートのみです。

形式を変更する特定のセルを指定するか、ワークシート全体の形式を変更するには空白にします。

適用する新しい形式をドロップダウンリストから選択します。

[追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1 から 4 の手順を必要なだけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。

[変換]ボタンをクリックし、処理を実行します。

追加の詳細

注意: シート名に番号を使用した場合、名前を引用符で囲む必要があります。たとえば、シートに 32 という名前を付ける場合、“32”というふうに名前を引用符で囲んで[オリジナルシート]に指定します。すると、Convert XLS では、それがシート番号でなく名前であることを認識します。ファイルを参照して選択する場合でも、手動で引用符を追加する必要があります。

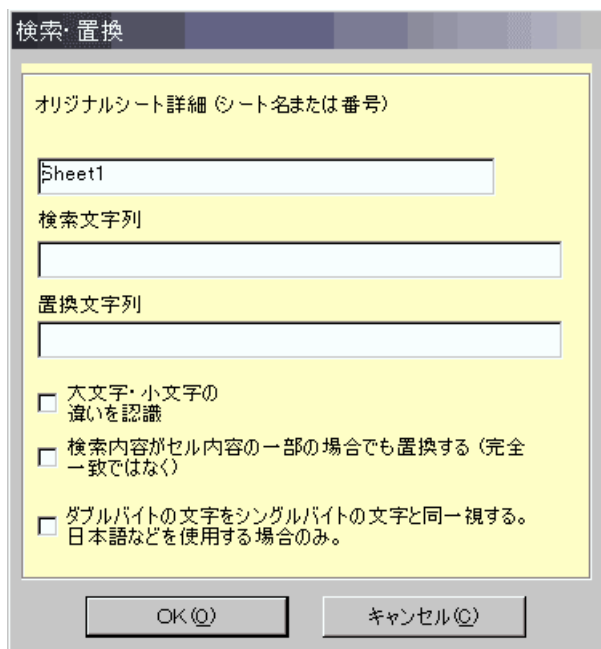
セルのコンテンツを検索および置換

特定のセルを検索し、他の内容に置換するには、次の手順を行います。

特殊処理ドロップダウンリストから、特殊処理[[109] (*XLS)セルのコンテンツを検索・置換する。]を選択します。このファイルフォーマットは、自動的に*.XLS に設定されます。

次に、オリジナルと対象ファイルを選択します。対象ファイルとオリジナルファイルが同一の場合、オリジナルファイルの指定したワークシートのデータは変更されます。対象ファイルが存在しない場合、'Convert XLS'が指定したワークシートに必要な変更を加え、対象ファイルを作成します。

[[検索 & 置換の詳細]設定]ボタンをクリックします。



変更するシートを選択します。名前をタイプするか、**...** ボタンをクリックして参照します。変更できるシートは既存のシートのみです。

検索する文字を指定します。

置換する文字を指定します。

大文字小文字を区別して検索するよう指定することもできます。

[検索内容がセル内容の一部の場合でも置換する(完全一致ではなく)]のオプションがチェックされている場合、スプレッドシートのどこかに[検索文字列]のテキストがあると置換されます。このオプションをチェックしないと、[検索文字列]のテキストがセル全体と一致しないかぎり置換されません。

[追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1 から 4 の手順を必要なだけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。

[変換]ボタンをクリックし、処理を実行します。

追加の詳細

注意: シート名に番号を使用した場合、名前を引用符で囲む必要があります。たとえば、シートに 32 という名前を付ける場合、“32”というふうに名前を引用符で囲んで[オリジナルシート]に指定します。すると、Convert XLS では、それがシート番号でなく名前であることを認識します。ファイルを参照して選択する場合でも、手動で引用符を追加する必要があります。

列を行に、行を列に変換

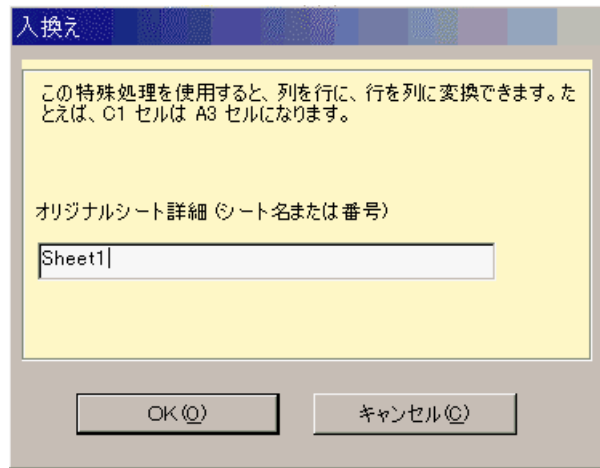
次の手順を実行し、ワークシート全体を入れ替えることができます。シートの入れ替えによって、行を列に、列を行に変換します。これは、たとえば、列にあるデータを行に置き換えたい場合やその逆を行うのに便利です。


次の手順を実行し、特定のワークシートを入れ替えることができます。

特殊処理ドロップダウンリストから、特殊処理[[110] (*XLS) 行→列、列→行にコンバートして入れ替える。]を選択します。このファイルフォーマットは、自動的に*.XLS に設定されます。

次に、オリジナルと対象ファイルを選択します。対象ファイルとオリジナルファイルが同一の場合、オリジナルファイルの指定したワークシートのデータが変更されます。対象ファイルが存在しない場合、'Convert XLS'が指定したワークシートに必要な変更を加え、対象ファイルを作成します。

[[データ入替えの詳細]設定]ボタンをクリックします。



変更するシートを選択します。名前をタイプするか、 ボタンをクリックして参照します。変更できるシートは既存のシートのみです。

追加の詳細

注意: シート名に番号を使用した場合、名前を引用符で囲む必要があります。たとえば、シートに 32 という名前を付ける場合、“32”というふうに名前を引用符で囲んで[オリジナルシート]に指定します。すると、Convert XLS では、それがシート番号でなく名前であることを認識します。ファイルを参照して選択する場合でも、手動で引用符を追加する必要があります。

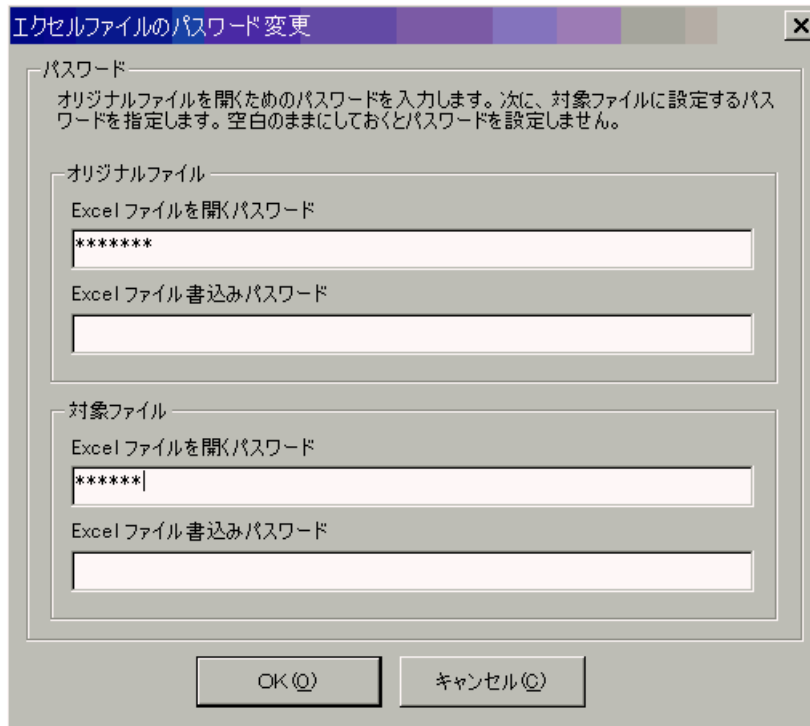
ワークブックのパスワードを変更または削除

Excel ワークブックのパスワードを変更または削除する場合、この特殊処理を使用します。単に他の特殊処理や変換を実行するために Excel ワークブックの開き方を指定する場合は、「プログラムオプション」の項を参照してください。

パスワードの変更は次の手順で行います。

1. 特殊処理ドロップダウンリストから、特殊処理[[111] (*XLS)XLS ファイルのパスワードの変更]を選択します。このファイルフォーマットは、自動的に*XLS に設定されます。
2. 次に、オリジナルと対象ファイルを選択します。対象ファイルとオリジナルファイルが同一の場合、オリジナルファイルのパスワードのデータが変更されます。対象ファイルが存在しない場合、'Convert XLS'が指定したワークブックに必要な変更を加え、対象ファイルを作成します。

[[パスワード変更]設定]ボタンをクリックし、[オリジナルファイル]と[対象ファイル]のファイルを開くパスワードとファイル書込みパスワードを入力します。



注意: [対象ファイル]を空白にすると、パスワードを削除できます。

CSV ファイルの操作

'Convert XLS'には、CSV 形式のファイル用に複数の処理があります。

フィールドを引用符で囲む

スペースでフィールドにパディングする

カンマをその他の区切り文字に変更する

空行を削除する

特定の ROWS を含めて、その他をすべて破棄する

特定の COLUMNS を含めて、その他をすべて破棄する

制御文字を削除する

余計なカンマを削除する

フィールドにパディングし、固定長にする

次の手順で、CSV に適用できる処理を行います。

オプション番号 201 から 208 の CSV 用特殊処理を選択します。このファイルフォーマットは、自動的に CSV に設定されません。

次に、オリジナルと対象ファイルを選択します。両方のファイルとも CSV フォーマットである必要があります。対象ファイルが存在しない場合、Convert XLS が自動的に対象ファイルを作成します。

[対象ファイルの選択]テキストボックスの下に表示される他のテキストボックスに入力します。それらのテキストボックスは、選択したオプションにより異なります。

.CSV ファイルの変更を表示するには、テキストエディタ (Notepad など) やワープロソフト (MS Word など) でファイルを開きます。



(CSV)フィールドを引用符で囲む

この特殊処理は CSV ファイルのそれぞれのフィールドを引用符で囲むときに使用します。たとえば、この処理を行う前のファイルは、次のようになります。

Data1,Data2,Data3

Data1,Data2,Data3

この処理を行うと、次のようになります。

"Data1","Data2","Data3"

"Data1","Data2","Data3"

(CSV)フィールドをスペースで囲む/パディング

この特殊処理は CSV ファイルのそれぞれのフィールドをスペース()で囲むときに使用します。たとえば、この処理を行う前のファイルは、次のようになります。

Data1,Data2,Data3,Data4

Data1,Data2,Data3,Data4

この処理を行うと、次のようになります。

```
Data1 , Data2 , Data3 , Data4
```

```
Data1 , Data2 , Data3 , Data4
```

(CSV)カンマを別の区切り記号に変更

この特殊処理は、カンマ区切りを別の区切り記号に変更するときに使用します。有効な ASCII 文字 (1-254) であれば指定できます。たとえば、カンマをシャープ“#” (ASCII35) に変更する場合、この処理を行う前のファイルは次のようになります。

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

この処理を行うと、次のようになります。

```
Data1#Data2#Data3#Data4
```

```
Data1#Data2#Data3#Data4
```

カンマ以外の ASCII 文字を他の ASCII 文字に変更するには、**特殊処理 75** を使用する必要があります。

例 (カンマから“#”に区切り記号を変更)

ファイル“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV”内で、カンマを“#”記号に変更するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /T“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /P203 /2 35
```

/S と /T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

(CSV)空行を削除

この特殊処理は、CSV ファイルから空行を削除する場合に使用します。空行とは、“,”の間にデータのない行のことです。空白文字はデータとは見なされません。たとえば、この処理を行う前のファイルは、次のようになります。

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

```
” ,
```

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

この処理を行うと、次のようになります。

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

(CSV)特定の ROWS を含め、その他をすべて破棄

この特殊処理では、他の行は保持したまま、特定の行を削除できます。指定されていない行は削除されます。たとえば、1、9-10、25、30 行を残す場合、“1,9-10, 25,30”と指定します。

(CSV)特定の COLUMNS を含め、その他をすべて破棄

この特殊処理では、他の行は保持したまま、特定の列を削除できます。指定されていない列は削除されます。たとえば、4-20、25、30 列を残す場合、“4-20,25,30”と指定します。

(CSV)制御文字がある場合に削除

不要な制御文字(キャリッジリターンなど)がデータに含まれている場合があります。この特殊処理を使用して、不要な制御文字を削除できます。もちろん、これには行末のキャリッジリターンや改行は含まれません。

(CSV)余計なカンマを削除

この特殊処理は CSV ファイルから余計なカンマを削除する場合に使用します。有効なデータの最後にあるカンマが削除されます。たとえば、この処理を行う前のファイルは、次のようになります。

```
Data1,Data2,Data3,Data4,,
```

```
” ’
```

```
Data1,Data2,Data3,Data4,,
```

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

この処理を行うと、次のようになります。

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

```
”
```

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

```
Data1,Data2,Data3,Data4
```

2 行目の 2 列目の空白文字は表示されていませんが、有効なデータです。

(CSV)フィールドを固定長にパディング

この特殊処理は、特殊な ASCII 文字を使用して、フィールドを固定長にパディングする場合に使用します。フィールドの長さ、パディングする ASCII 文字(スペースなど)、パディングする列、データの左右どちらにパディングするかを指定します。

TXT、DOC、HTM および RTF ファイルの操作

テキストファイルに複数の特殊処理を行うこともできます。特殊処理は次のとおりです。

特殊処理: 空白行の削除

この特殊処理では、見えない行または空白行を削除します。この処理には、スペース、改行、キャリッジリターン、タブおよび垂直タブの削除も含まれます。一度のジョブで 1 つのファイル进行处理することも、フォルダ全体のファイル进行处理することもできます。空白行の削除は次の手順で行います。

使用できる特殊処理の一覧から[[55] **空白行の削除**]オプションを選択し、[ファイルフォーマット]からオリジナルファイルのファイルフォーマットを選択します。対象ファイルもこのフォーマットで保存される必要があります。

[処理するファイル/フォルダの選択]から処理するファイルまたはフォルダのパスを参照するか入力します。

ファイルを保存する場所と名前を参照するか入力して[対象ファイル]に対象ファイルの情報を入力します。フォーマットは手順 1 の[ファイルフォーマット]と同じである必要があります。

[追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1 から 4 の手順を必要なだけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。

[変換]ボタンをクリックし、処理を開始します。

複数の変換タスクからなる変換ジョブは、保存、復元、編集が可能です。保存したら、その変換ジョブをコマンドラインから指定、実行できます。

特殊処理: ファイルの追加(連結)

1 つのファイルを他のファイルの末尾に追加できます。その際、対象ファイルの最後にオリジナルファイルのコピーが付きます。

1. 使用できる特殊処理の一覧から[[50] **(*)ファイルを追加(連結)する**]オプションを選択し、[ファイルフォーマット]からオリジナルファイルのファイルフォーマットを選択します。対象ファイルもこのフォーマットで保存される必要があります。
2. [処理するファイル/フォルダの選択]から処理するファイルまたはフォルダのパスを参照するか入力します。
3. ファイルを保存する場所と名前を参照するか入力して[対象ファイル]に対象ファイルの情報を入力します。フォーマットは手順 1 の[ファイルフォーマット]と同じである必要があります。
4. [追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1 から 4 の手順を必要なだけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。
5. [変換]ボタンをクリックし、処理を開始します。

また、[フォルダ]オプションでオリジナルファイルを選択し、ファイルフォーマットをパスの最後に加えると(例: *.doc、*.htm、*.txt)、複数のファイルを 1 つのファイルの終わりに追加することができます。対象ファイルとして、同じフォーマットのファイル名を 1 つ指定する必要があります。それは同じフォルダにあるファイルでも別のフォルダにあるファイルでもかまいません。たとえば、オリジナルファイルに C:\BusinessLetters*.doc を指定し、対象ファイルに C:\BusinessLetters\ManyLetters.doc を指定すると、BusinessLetters フォルダにあるすべての.doc を ManyLetters.doc に追加します。

特殊処理: 文字列の検索および置換

この特殊処理により、1つのファイルや複数のファイルのテキストの一部を置換することができます。処理するファイル、検索する文字列および置換する文字列を選択します。

複数のファイルを検索対象とする場合、[オリジナルファイル]にフォルダ名、ワイルドカード、ファイルタイプを入力します。たとえば、C:\¥TestFolder¥*.docと入力すると、TestFolderのすべての.docファイルが検索対象となります。1つのファイルを検索する場合、たとえば、C:\¥TestFolder¥OneFile.docとファイル名を指定します。

オリジナルファイルでも他のファイルでも置換できます。オリジナルファイルで置換する場合、[オリジナルファイル]と[対象ファイル]の両方のパスに同じファイル名を使用します。そうしない場合、別の対象ファイル名が指定され、置換処理された他のファイルが生成されます。指定された対象ファイルがすでに存在する場合、ファイルは上書きされます。

特殊制御文字

検索文字列テキストボックスの下に ASCII 文字を指定するリストボックスがあります。検索と置換文字列に符号や制御文字を使用する場合、ASCII 文字で指定できます。たとえば、リターン([Enter])を含む文字列を検索する場合、ASCII Char リストボックスから ASCII 文字の[10]LFを選択します。文字列では©10©のように表示されます。「1. First item.」という文字列に置換する場合、「1.」の後ろにはタブが必要です。[9]TABを選択して、文字列に©9©を表示させます。文字列全体は、「1.©9©First item.」となります。

注意: [Enter]を ASCII の改行文字([10]LF)のみで検索することもできますが、[Enter]を置換文字列に加えたい場合は、[13]CRと[10]LFの2つの ASCII 文字を組み合わせて使用する必要があります。たとえば、検索する文字列「this is a string」のそれぞれの単語の後ろにリターンを加えたい場合、置換文字列は this ©13© ©10©is ©13© ©10©a ©13© ©10©string となります。ASCII 文字は ASCII Char リストボックスから選択できます。

その他の役立つ ASCII 文字は、[32]SPACE です。

大文字小文字の区別

大文字小文字を区別して検索するかを指定できます。区別しない場合、大文字小文字にかかわらず、該当する文字が検索されると、その検索文字列はすべて置換されます。

注意: 次のオプションはすべてのファイルタイプで使用できるわけではありません。

正規表現の使用

テキストファイル(UNICODE または ANSI)では、正規表現の使用を指定できます。正規表現を使用すると、検索文字列を指定するときに、一般法則を使用できます。たとえば、h で始まるすべての文字を検索し置換するよう指定できます。この場合、hello や happy などが置換されます。注意: 入力するファイル形式を RTF ではなくテキストに指定すると、RTF ファイルでも検索および置換できます。使用されている正規表現エンジンについての詳細は、次のリンクを参照してください。

<http://www.softinterface.com/FAQ/FAQ-Regular-Expressions.htm>

完全に一致する単語だけを検索

検索アイテムの前後に空白や見えないテキストがある場合、それらも含めて検索されます。検索アイテムの前後に句読点がある場合でも同様です。

行の最初は検索対象外

テキストが行の最初にない場合にのみ検索されます。

行の最後は検索対象外

テキストが行の最後にない場合にのみ検索されます。

複数行表現

複数行のテキストを検索します。

終了後レポートを作成

検索で合致したアイテムの概要が必要な場合、このオプションを有効にして、レポートファイルを指定します。

特殊処理: 文字の置換

TXT または CSV ファイルのある ASCII 文字を別の ASCII 文字に置換することができます。引用符に囲まれた文字は置換されません。

1. 特殊処理のリストから、オプション[[75](*)CSV *.TXT)文字置換 - 囲み文字内は無視。]を選択します。使用できる[ファイルフォーマット]は CSV またはテキストです。
2. [処理するファイル/フォルダの選択]から処理するファイルまたはフォルダのパスを参照するか入力します。
3. ファイルを保存する場所と名前を参照するか入力して[対象ファイル]に対象ファイルの情報を入力します。フォーマットは TXT または CSV にする必要があります。
4. [検索文字]のドロップダウンリストから置換する ASCII 文字を選択し、[置換文字]のドロップダウンリストから置換文字を選択します。
5. [追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、2 から 5 の手順を必要なだけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。
6. [変換]ボタンをクリックし、処理を開始します。

プログラムの起動、コピー、削除およびその他のファイル操作

Convert XLS から、たとえば command.com(コピー、削除、ファイル名/フォルダ名の変更が可能)のようなプログラムを選択し、起動することができます。これにより、コマンドライン引数の使用や、バッチファイルや MS Word、Excel などのアプリケーションの実行が可能になります。

[特殊処理:[60]プログラムの起動(実行)]を選択すると、次のような画面になります。

アプリケーション名: 実行するアプリケーションのパスと名前をタイプするか参照します。ここでは、コンピュータにインストールされているアプリケーションかコマンド・インタプリタを指定できます。起動ボタン(▶) [アプリケーション名]テキストボックスの右隣をクリックすると、タスクを実行せずアプリケーションが立ち上がり、新規のファイルが開きます。

コマンドインタプリタ(command.com や cmd.exe)を選択すると、コマンドライン引数(DOS コマンド)を使用できます。環境変数の関係により、Windows NT システムの command.com と cmd.exe には相違があります。たとえば、command.com を使用すると、8.3 DOS 命名規則により制限が生じるのに対し、cmd.exe にこの制限はありません。したがって、「totalOf8.txt」というファイル名は command.com でも cmd.exe でも使用できますが、「totalOfTen.txt」のような長い名前は cmd.exe でのみ使用できます。システムの設定により command.com でも使用できる場合もありますが、すべての状況で使用できるわけではありません。その場合、代わりに cmd.exe をアプリケーション名に指定し、同じコマンドライン引数を試みてください。

コマンドライン引数: ここでは、コピー、削除、ディレクトリの作成、バッチファイルの実行など、これまでの DOS コマンドが使用できます。文字列が続く場合、コマンドラインは「/c」からはじめます。注意: command.com インタプリタを使用する場合、通常の DOS 命名規則により、ファイル名には 8 文字+3 文字以内の拡張子(例: eightchar.txt)の名前をつける必要があります。ここに他の引数を付けずにファイル名とパスと指定した場合、アプリケーションが起動し、ファイルを開きます。

ウィンドウ表示状態: 隠す、標準、最大化または最小化から選択します。プログラムによってはこの項目が無効化され、そのプログラムが自動で選択した状態で開きます。

スレッドのプライオリティ: 待機、標準、最優先、リアルタイム優先順位から選択します。

待機	システムが待機状態のときにのみスレッドを実行するプロセスです。このプロセスのスレッドは、より優先度の高いプロセスのスレッドを優先します。
標準	特別なスケジュールの必要のないプロセスです。
最優先	直ちに実行する必要がある、時間が重要視されるタスクを実行するプロセスです。このスレッドの処理は、標準または待機レベルの処理より優先されます。
リアルタイム優先順位	優先順位が最も高いプロセスです。このプロセスのスレッドは、重要なタスクを実行しているオペレーティングシステムのプロセスを含む他のすべてのプロセスよりも優先されます。

次のタスクまでのタイムアウト: 変換タスク一覧の次のタスクに移行する前にプロセスが実行する最大時間を秒単位で指定します。タイムアウトを必要としない場合は、-1 を使用します。

プログラムの起動: cmd.exe の例

コマンドラインは個別に実行することも、グループとして実行するように変換タスク一覧を作成することも、追加することもできます。プログラムを起動してタスクを完了するには、次の手順を行います。

[アプリケーション名] テキストボックスにアプリケーション名を入力します。

[コマンドライン引数] テキストボックスに実行するタスクのコマンドライン引数を入力します。

必要に応じて [ウィンドウ表示状態]、[スレッド優先順位] および [次のタスクまでのタイムアウト] を設定するか、デフォルトのままにします。

[追加] をクリックし、変換タスク一覧に追加します。

これで、[変換] ボタンをクリックし、入力した 1 つのタスクを実行できます。または、それぞれのタスクで 1 から 4 の手順を繰り返してタスクを追加し、[変換] をクリックして実行することもできます。そのジョブを再度実行する場合は、メインメニューから [ファイル] > [変換ジョブの保存] をクリックして、*.SII として保存します。

たとえば、次の表にある 5 つのコマンドを 1 つのグループとして実行するには、それぞれのアプリケーション名/コマンドライン引数に対し 1 から 4 の手順を繰り返します。すべてのジョブは次に行われます。1) C ドライブに TestDir という名前のディレクトリを作成します。2) Sample1.TXT というファイルをそのフォルダにコピーし、Copy1.TXT という名前をつけます。3) 新しいファイルを CopyOfSample という名前に変更し、リッチテキストフォーマット (RTF) で保存します。4) D ドライブから Sample1.TXT を削除します。5) cmdline.BAT という名前のバッチファイルを実行します。

アプリケーション名	コマンドライン引数
c:\windows\system32\cmd.exe	/c mkdir C:\TestDir
c:\windows\system32\cmd.exe	/c copy D:\Suzanne\Sample1.TXT C:\TestDir\COPY1.TXT
c:\windows\system32\cmd.exe	/c rename C:\TestDir\COPY1.TXT CopyOfSample.RTF
c:\windows\system32\cmd.exe	/c del D:\Suzanne\Sample1.TXT (注意: 最終引数として/P を含めることもできます。そ

	の場合、削除の確認がプロンプトされます。)
c:\windows\system32\cmd.exe	/c D:\Suzanne\cmdline.BAT

注意: CMD.EXE は COMMAND.EXE とも呼ばれることがあり、両方ともオペレーティングシステムの System32 フォルダにあります。

'Convert XLS'の使用に必要なもの

このソフトウェアに必要な最小限のハードウェアおよびソフトウェア要件は次のとおりです。

16MB のメモリを搭載し、12MB のハードディスクドライブの空き容量がある IBM または互換性のある PC/AT (Pentium またはそれ以上の CPU)

VGA または SVGA ディスプレイアダプタ

Microsoft Windows 95、Windows 98、Windows 2000、または Windows XP

Excel の機能を使用する場合、Microsoft Excel 97 以降の製品とライセンスの購入はユーザーの責任です。

インストールとアンインストール

インストール

ConvertXLS をコンピュータにインストールするためにセットアッププログラムを実行すると、インストールするハードドライブの場所を指定できます。整合性を保つため、推奨されるディレクトリにインストールすることをお勧めします (必須ではありません)。

'Convert XLS'のメディアにある Setup.EXE を実行します。タスクバーの[スタート]ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行]メニューオプションを選択して、Setup.EXE を実行することもできます。その場合、Setup.EXE プログラムのパスと場所をタイプします。次に例を示します。

```
A:setup
```

[Enter]を押します。画面のインストールの指示に従います。

アンインストール

新しいバージョンの製品をインストールする前に、'Convert XLS'をアンインストールすることをお勧めします。

'Convert XLS'をアンインストールするには、タスクバーの[スタート]ボタンを押して、[設定]>[コントロールパネル]を選択します。

コントロールパネルの中から[アプリケーションの追加と削除]アイコンを選択します。一覧にある'Convert XLS'をダブルクリックするか、[追加/削除]ボタンでアンインストールします。

他のプログラムで使用されていない限り、インストールでコピーされたすべてのファイルが削除されます。さらに、インストール先のディレクトリにファイル(例: 作成したプログラムファイル)が追加されている場合、すべてのディレクトリが削除されなかったというレポートがアンインストールウィザードに表示されます。それらのファイルは手動で削除する必要があります。

トラブルシューティング

問題が発生したら、まず、次の手順でトラブルを解消してください。

このマニュアルを参照

[FAQ](#)★リンク先が Convert Doc のものです。要リンク先変更★

[バグ一覧](#)★要リンク先変更★

[最新パッチ/ダウンロード](#)

質問を Support@SoftInterface.COM へ電子メールで送信(英語)

質問を ConvertXLS@MarronCraft.COM へ電子メールで送信(日本語)

'[Convert XLS](#)'の使いやすさとこのマニュアルが、必要なサポートの入手のお役に立つことを願います。

コマンドラインからの'Convert XLS'の使用

コマンドラインの使用

ユーザーインターフェースを使用せず、昔ながらの DOS のように、コマンドライン引数を使用して'Convert XLS'を実行できます。また、オペレーティングシステムのコマンドプロンプトや、Windows の[スタート]>[ファイル名を指定して実行]メニューからコマンドプロンプトをタイプしてコマンドラインを実行することもできます。さらに、バッチファイル(*.BAT 拡張子のあるファイル)からコマンドラインインターフェースを使用できます。

コマンドラインからは次の 2 つを実行できます。

'Convert XLS'のグラフィカルユーザーインターフェースで作成された変換ジョブを指定し、変換ジョブファイル(*.SII)として保存する。

変換ジョブの詳細を指定する。タスクは[変換タスク]または[特殊処理タスク]のいずれかです。

変換ジョブファイルの指定は、'Convert XLS'ユーザーインターフェイスでファイルを作成し、/J スイッチを使用して*.SII 変換ジョブファイルの場所を指定するだけなので、とても簡単です。変換ジョブファイルに何百、何千のタスクを指定していても、すべてのタスクを一斉に実行できます。次に例を示します。

```
"ConvertXLS.EXE /J"D:¥My Conversion Job Files¥AccountingBatch.SII"
```

変換タスクの指定は、それよりは手間がかかりますが、変換ジョブファイルを事前に作成する必要がありません。

次にそれぞれの方法を詳しく説明します。

重要: コマンドラインを正しく使用するには、次のうちの 1 つを行う必要があります。

環境変数に ConvertXLS.EXE のパスを設定する。

バッチファイルと同じフォルダに ConvertXLS.EXE をコピーする。

そうしないと、次のエラーが発生します。

```
"'ConvertXLS' is not recognized as an internal or external command, operable program or batch file."
```

次も参照してください。

コマンドラインの作成に役立つヒント

変換ジョブファイルの指定(コマンドラインを実行する最も簡単な方法)

変換タスクの指定

特殊処理タスクの指定

特殊処理ファイルタイプの定数

コマンドラインの作成に役立つヒント

コマンドラインを作成する前に、ユーザーインターフェイスを使用することをお勧めします。その理由は次のとおりです。

- 実行したいことがすべて行えるかどうかを確認できる
- コマンドラインに指定する項目を確認できる
- すべての方法の中で最も簡単な方法である変換ジョブファイルの指定を行うことにより、すばやくコマンドラインをテストできる

次も参照してください。

コマンドラインの使用

変換ジョブファイルの指定(コマンドライン実行の最も簡単な方法)

変換タスクの指定

特殊処理タスクの指定

特殊処理ファイルタイプの定数

変換ジョブファイルの指定

まず、'Convert XLS'のグラフィカルユーザーインターフェースを使用して、変換ジョブファイルを作成します。基本的に、それぞれの変換タスクの詳細を設定し、[追加]ボタンを押して実行するタスクを追加します。タスク一覧が完成したら、[ファイル]メニューから「変換ジョブ」を保存します。

注意: 保存する前に、[巻き戻し]ボタンを押して、コマンドラインからタスク一覧全体が実行されることを確認してください。

次の構文で「変換ジョブ」ファイルを指定します。

ConvertXLS /J[ConversionJobFile] [/V] [/L[LogFile]] [/B[LogToJobFile]] [/W[PW]] [/X[PW]] [/Y[PW]] [/Z[PW]]

角括弧([])で囲まれている上記のアイテムはオプションで、その他のスイッチは必須です。したがって、常に/Jをコマンドラインに指定する必要があります。

例:

“C:¥MyJobs¥ApplesOranges.SII”で指定した変換ジョブを実行するには、コマンドプロンプトに次をタイプします。

ConvertXLS.EXE /J“C:¥MyJobs¥ApplesOranges.SII”

スイッチとパラメータの間にはスペースを含めても含めなくてもかまいません。たとえば、「/C6」は「/C 6」と同じです。長いファイル名の場合、二重引用符が必要な場合があります。たとえば、/J“C:¥Program Files¥MyApp¥MyDoc.DOC”です。

次も参照してください。

コマンドラインの使用

コマンドラインの作成に役立つヒント

変換タスクの指定

特殊処理タスクの指定

特殊処理ファイルタイプの定数

変換タスクの指定

変換タスクを指定するコマンドラインの構文は次のようになります。

ConvertXLS /S{Original File(s)} /T{Target File(s)} /F# /C# [/M#] [/N“{Sheets^Range^DelimChar}”] [/G] [/V] [/R] [/L[LogFile]] [/B[LogToJobFile]] [/U] [/W[PW]] [/X[PW]] [/Y[PW]] [/Z[PW]]

角括弧([])で囲まれている上記のアイテムはオプションで、その他のスイッチは必須です。したがって、常に/S、/T、/C#をコマンドラインに指定する必要があります。しかし、例外として、/G(オリジナルフォルダに保存)を指定すると、/Tスイッチは必要ありません。

スイッチとパラメータの間にはスペースを含めても含めなくてもかまいません。たとえば、「/C6」は「/C 6」と同じです。長いファイル名の場合、二重引用符が必要な場合があります。たとえば、/S“C:¥Program Files¥MyApp¥MyDoc.DOC”です。

/S{Original File(s)}は、変換するファイルを指定するのに使用します。1つのファイルを指定することも、ワイルドカード構文を使用して、ファイル式を指定することもできます(例: "C:\MyFiles*.XLS")。/T{Target files}と/S{Original File(s)}は常に別である必要があります。

追加の注意事項: MS Excel で開くことができるファイルタイプなら、どれでも有効なオリジナルファイル/S{Original File}タイプです。

/T{Target File(s)}は、変換されるファイルの保存先を指定するのに使用します。1つのファイルを指定することも、ワイルドカード構文を使用して、ファイル式を指定することもできます(例: "C:\MyFiles*.XLS")。/T{Target files}と/S{Original File(s)}は常に別である必要があります。

/F#は、オリジナルファイルのタイプ(/S{Original File})を'Convert XLS'に伝えます。これは、'Convert XLS'変換方式/M2を使用する場合にのみ必要です。すべての定数については、「特殊処理ファイルタイプの定数」を参照してください。

[/C#]は、/T{Target File(s)}ファイルをどのファイルタイプに変換するかを'Convert XLS'に伝えます。すべての定数については、「特殊処理ファイルタイプの定数」を参照してください。

[/M#]は使用する変換方式を指定します。次の値が有効です。

1 = MS Excel

2 = 'Convert XLS' (デフォルト値)

このスイッチは、'Convert XLS'方式を使用する場合には不要です。

この値の選択に関する詳細は、「変換方式」を参照してください。

[/N"[Sheet^Range^DelimChar]"]は、Excel ファイルから Excel ファイルに変換する場合にのみ使用します。ここでは、変換するシート、範囲、使用するデリミタ文字/区切り文字を指定します。このパラメータの構文は重要で、これら3つの指定内容はキャレット文字"^"で区切ります。シート、範囲、デリミタ文字/区切り文字を指定しないと、すべてのシート、すべての範囲、デリミタ文字にはカンマがデフォルトで指定されます。また、/N"Apples,Oranges^A2:B20^9"のように、パラメータの周りを二重引用符で囲むことが重要です。

すべてのシートを指定するには、"*"または""を使用します。シート名または番号を使用することもできます。番号を使用する場合、シートの範囲を指定できます(例: "1,4,10-20"および"4-10,9"など)。範囲とデリミタ文字はオプションです。

たとえば、区切り文字にタブ(ASCII の 10 進値では 9)を使用して、"Apples"と"Oranges"というシートの"A2:B20"の範囲を指定する場合、構文は次のようになります。

/N"Apples,Oranges^A2:B20^9"

[/G]はオリジナルのフォルダにファイルを保存します。オリジナルファイルと同じフォルダに変換したファイルを置くには、/T の代わりにこのスイッチを使用します。同じフォルダ内で1つのファイルの変換を指定した場合は使用できません。代わりに/T スイッチを使用します。

[/V]は詳細モードです。変換の進行状況を表すメッセージボックスを表示するには、このスイッチを指定します。/L も参照してください。

[/R]は、/S スイッチで指定したサブフォルダ内のすべてのファイルを検出し、実行します。再帰的サブディレクトリです。ディレクトリ全体のファイルを処理する場合、このスイッチを追加できます。ディレクトリ全体の変換の選択については、/S、/T および/G を参照してください。

[/L[LogFile]]は、ログファイルのパスおよび名前です(例: d:\mylogs\WCE.LOG)。このスイッチを指定すると、指定したパスと名前のログファイルが作成され、変換結果が記録されます。/V も参照してください。

[/B[LogToJobFile]]は、エラーが発生した場合にのみ、ログファイルを変換ジョブとして保存します。これは、問題のあるファイルを後から処理する場合や、他の方法で処理する場合に有効です。/B は/Lとは異なります。/B で作成されるファイルには、変換ジョブファイルでは認識できない不要なコメントは含まれないためです。ジョブとして読み込めるように、.SII ファイルタイプで保存します。

[/U]スイッチは、1 つの XLS ファイルの複数シートを変換する場合、1 つのファイルではなく、複数のファイルを作成します。

[/W[PasswordToOpenOriginalFile(s)]]は、オリジナルファイルを開くパスワードです。

[/X[PasswordToWriteToOriginalFile(s)]]は、オリジナルファイルへの書き込みを許可するパスワードです。

[/Y[PasswordToOpenTargetFile(s)]]は、対象ファイルを開くパスワードです。

[/Z[PasswordToWriteToTargetFile(s)]]は、対象ファイルへの書き込みを許可するパスワードです。

次も参照してください。

コマンドラインの使用

コマンドラインの作成に役立つヒント

変換ジョブファイルの指定

特殊処理タスクの指定

Excel 変換ファイルタイプの定数

特殊処理タスクの指定

特殊処理には、シート間のデータのコピー、シートの操作、カンマ区切りファイルへのフィルタの適用などがあります。特殊処理の一覧は、この項にある表を参照してください。

特殊処理タスクを指定するコマンドラインの構文は次のようになります。

```
ConvertXLS /P# /1{Parameter1} /2{Parameter2} ... /n{Nth Parameter}
/S{Original File(s)} /T{Target File(s)} [/F#] [/G] [/V] [/R]
[/L[LogFile]] [/B[LogToJobFile]] [/W[PW]] [/X[PW]] [/Y[PW]] [/Z[PW]]
[/A] [/H]
```

角括弧([])で囲まれている上記のアイテムはオプションで、その他のスイッチは必須です。したがって、常に/P#、/1.../n、/S、/T をコマンドラインに指定する必要があります。しかし、例外として、/G(オリジナルフォルダに保存)を指定すると、/T スイッチは必要ありません。この項を読み終えたら、次の項にある例も参照してください。

/P# は、特殊処理タスクを番号で指定するのに使います。次の表では、それぞれの値を説明します。

/1[Parameters] ... /n[Nth Parameter]には、/P#で指定した特殊処理によって、追加の情報/パラメータが必要な場合があります。次の表では、それぞれの値と必要になる追加のパラメータを説明します。

/S[Original File(s)]は、特殊処理を行うファイル指定するのに使います。1つのファイル指定することも、ワイルドカード構文を使用して、ファイル式を指定することもできます(例: "C:¥MyFiles¥*.XLS")。/Tが/Sと異なる場合、オリジナルのソースファイルは変更されません。特殊処理でオリジナルファイルを変更する場合、/T[Target files]にも同じ値を指定します。そうしない場合、/T [Target Files]に異なる値を指定して、オリジナルファイルを変更しないようにできます。

/T[Target File(s)]は、処理したデータをどのファイルに保存するかを指定します。1つのファイル指定することも、ワイルドカード構文を使用して、ファイル式を指定することもできます(例: "C:¥MyFiles¥*.XLS")。/Tが/Sと異なる場合、オリジナルのソースファイルは変更されません。特殊処理でオリジナルソースファイルを変更する場合、/T[Target files]にも同じ値を指定します。そうしない場合、/T [Target Files]に異なる値を指定して、オリジナルファイルを変更しないようにできます。

/F#は、処理されるファイルタイプを'Convert XLS'に伝えます。/P50 - /P75(追加、空白行の削除、文字列の検索および置換、文字の置換)にのみ必要です。すべての定数については、「特殊処理ファイルタイプの定数」を参照してください。

/Gは、オリジナルのフォルダにファイルを保存します。オリジナルファイルと同じフォルダに変換したファイルを置くには、/Tの代わりにこのスイッチを使用します。同じフォルダ内で1つのファイルの変換を指定した場合は使用できません。代わりに/Tスイッチを使用します。

/Vは詳細モードです。変換の進行状況を表すメッセージボックスを表示するには、このスイッチを指定します。/Lも参照してください。

/Rは、/Sスイッチで指定されたサブフォルダのすべてのファイルを検出し、実行します。再帰的サブディレクトリです。ディレクトリのファイル全体を処理する場合、このスイッチを追加できます。ディレクトリ全体の変換の選択については、/S、/Tおよび/Gを参照してください。

/L[LogFile]はログファイルのパスおよび名前です(例: d:¥mylogs¥WCE.LOG)。このスイッチを指定すると、指定したパスと名前のログファイルが作成され、変換結果が記録されます。/Vも参照してください。

/B[LogToJobFile]は、エラーが発生した場合にのみ、ログファイルを変換ジョブとして保存します。これは、問題のあるファイルを後から処理する場合や、他の方法で処理する場合に有効です。/Bは/Lとは異なります。/Bで作成されるファイルには、変換ジョブファイルでは認識できない不要なコメントは含まれないためです。ジョブとして読み込めるように、.SIIファイルタイプで保存します。

/W[PasswordToOpenOriginalFile(s)]は、オリジナルファイルを開くパスワードです。

/X[PasswordToWriteToOriginalFile(s)]は、オリジナルファイルへの書き込みを許可するパスワードです。

/Y[PasswordToOpenTargetFile(s)]は、対象ファイルを開くパスワードです。

/Z[PasswordToWriteToTargetFile(s)]は、対象ファイルへの書き込みを許可するパスワードです。

/Aは、'Convert XLS'変換方式(/M2)を使用してXLSからテキスト(Unicodeまたは8ビットASCII)に変換する場合、オプションとして列の自動調整を解除するのに使います。デフォルトで行われる自動調整では、ワークシートのすべての列のサイズがテキストに合わせて変更されます。

[/H]は、'Convert XLS'変換方式(/M2)を使用して XLS から他のフォーマットに変換する場合、「MS Excel」変換方式のように、オプションで式と値を含めるよう指定します。

注意: /1{Parameter1}から/n{Nth Parameter}では、FALSE のブールパラメータ(True/False)を指定する必要はありません。また、空白のパラメータを指定する必要もありません。

すべての例とそれぞれのパラメータの詳細は、「特殊処理の例」の項を参照してください。

次の表の/P#列をクリックして、使用する例とパラメータの詳細にジャンプしてください。

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
101	(XLS) 指定したシートのデータを同じまたは別の XLS ファイルにコピーする。1つのシートに複数のシートのデータを追加、連結するのに使用する。	/1 = sOriginalSheet(名前または番号) /2 = bCopyFormula("TRUE"または"FALSE") /3 = bCopySheetName("TRUE"または"FALSE") /4 = bCopyFromSpecifiedRange("TRUE"または"FALSE") /5 = sSpecifiedRangeToCopyFrom /6 = sTargetSheet(名前または番号) /7 = bCopyToSpecifiedRange("TRUE"または"FALSE") /8 = sSpecifiedRangeToCopyTo
102	(XLS)シート全体を同じまたは新規の XLS ファイルにコピーする。	/1 = sOriginalSheet(名前または番号) /2 = sSheetBefore(名前または番号) /3 = sSheetAfter(名前または番号) /4 = lActionOnDuplicate() /5 = sTargetSheet(名前または番号)
103	(XLS) 1枚または指定した範囲のシートを削除する。	/1 = sSheetStart(名前または番号) /2 = sSheetEnd(名前または番号) /3 = sSheetDeleteAllExceptThisOne(名前または番号)
104	(XLS)場所を指定して新しいシートをワークブックに追加する。	/1 = sSheetToAdd(名前) /2 = sSheetBefore(名前または番号) /3 = sSheetAfter(名前または番号) /4 = bOverwriteExisting("TRUE"または"FALSE")
105	(XLS)ワークブック内でシートを移動する。	/1 = sSheetToMove(名前または番号) /2 = sSheetBefore(名前または番号) /3 = sSheetAfter(名前または番号)
106	(XLS)シート名を変更する。	/1 = sSheetToRename(名前または番号) /2 = sNewSheetName(名前または番号)
107	(XLS)指定した行または列を削除する。	/1 = sSheetStart(名前または番号) /2 = sToDelete(番号) /3 = bDeleteColumns("TRUE"または"FALSE")
108	(XLS)番号の形式を変更する(例:カンマを追加/削除)。	/1 = sSheetStart(名前または番号) /2 = sRange(番号) /3 = sNewFormat(名前)

		/4 = INewFormat(番号)
109	(XLS)セルの内容を検索し置換する。	/1 = sSheet – worksheet to be modified(名前または番号) /2 = sSearchFor – 変更するテキスト /3 = sReplaceWith – 置換するテキスト /4 = bCaseSensitive – “TRUE”または“FALSE” /5 = bLookAtPart – “TRUE”または“FALSE” /6 = bMatchByte – “TRUE”または“FALSE”
110	(XLS)シートを入れ替える。行を列に、列を行に変換する。	/1 = sSheet – 入れ替えるワークシート
111	(XLS)XLS ファイルのパスワードを変更または削除する。	/1 = オリジナルファイルを開くパスワード /2 = オリジナルファイルに書き込むパスワード /3 = 対象ファイルを開くパスワード /4 = 対象ファイルに書き込むパスワード /W-/Z も参照
/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
201	(CSV)フィールドを引用符で囲む。	なし
202	(CSV)スペースでフィールドにパディングする。	なし
203	(CSV)カンマをその他の区切り記号に変更する。	/2 = カンマ,""に置き換える 10 進法の ASCII 数値。 たとえば、カンマをシャープ"#"変更する場合、/2 35 と指定します。
204	(CSV)空行を削除する。	なし
205	(CSV)特定の ROWS を含め、その他をすべて破棄する。	/1 = 含める行の選択。他はすべて破棄されます。 たとえば、4-20、25、30 行を残す場合、"/1 4-20,25,30"と指定します。
206	(CSV)特定の COLUMNS を含め、その他をすべて破棄する。	/1 = 含める列の選択他はすべて破棄されます。 たとえば、4-20、25、30 列を残す場合、"/1 4-20,25,30"と指定します。
207	(CSV)制御文字がある場合に削除する。	なし
208	(CSV)余計なカンマを削除する。	なし
209	(CSV)パディングし、フィールドを固定長にする。	/1 = ILength は、パディングしたフィールドの長さを表します。 /2 = sPadChar は、パディング文字の ASCII 番号です。 /3 = bPadLeft(“TRUE”または“FALSE”)。左にパディングする場合、“TRUE”を設定します。

		/4 = IColumn は、パディングする列を表します。
/F#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
50	(DOC、RTF、HTM、TXT)テキストファイルを追加/連結する。	なし 特殊処理タイプ定数には、/F#を指定する必要があります。
55	(DOC、RTF、HTM、TXT) 空行を削除する。 。	なし 特殊処理タイプ定数には、/F#を指定する必要があります。
56	(DOC、RTF、HTM、TXT)文字列を検索および置換する。	/1 = sTextToFind /2 = TextToReplace 検索するテキスト /3 = bCaseSensitive ("TRUE"または"FALSE")。大文字小文字を区別する場合、"TRUE"を設定します。 特殊処理タイプ定数には、/F#を指定する必要があります。
75	(CSV、TXT)文字を置換し、引用符の中は無視する。	/1 = sSearchFor /2 = sReplace 特殊処理タイプ定数には、/F#を指定する必要があります。

次も参照してください。

コマンドラインの使用

コマンドラインの作成に役立つヒント

変換ジョブの指定

変換タスクの指定

特殊処理ファイルタイプの定数

すべてのコマンドラインスイッチ

それぞれのスイッチの説明は次のようになります。

スイッチ	意味
/J {File}	実行する変換ジョブファイル(*.SII)を指定します。このスイッチを使用する場合、事前に変換ジョブファイルを作成する必要があります。
/S {File}	変換するオリジナルファイルです。 完全パスを含むファイルを1つ指定すると、ファイルを1つ変換できます(例: "D:\MyExcelFiles\MyExcelFile.XLS")。 ファイルを1つ指定した場合、/T スイッチが1つの出力ファイルを指定していることを確認します(例: "D:\MyExcelFiles\TargetOutput.CSV")。 また、ワイルドカード構文を使用してディレクトリ全体を指定す

	<p>することもできます(例: "D:\MyExcelFiles*.XLS")。ディレクトリ全体を指定する場合、/T がディレクトリ全体と対象ファイルの新しい拡張子を指定していることを確認します(例: "D:\MyExcelFiles*.CSV")。</p> <p>サブフォルダについては、/R を参照してください。</p>
/F #	<p>オリジナルファイルのファイルタイプです。オリジナルファイルのパスは、/S スイッチで指定されます。このスイッチは、これらのファイルのファイルタイプを指定します。</p> <p>有効な値については、ファイルタイプ定数の表を参照してください。</p>
/T{File}	<p>変換後に作成される対象ファイルです。これらのファイルは、オリジナルファイルと選択した変換方式によって作成されます。</p> <p>ファイルを 1 つ指定した場合、/S スイッチが 1 つの入力ファイルを指定していることを確認します(例: "D:\MyExcelFiles\TargetOutput.DOC")。</p> <p>また、ワイルドカード構文を使用してディレクトリ全体を指定することもできます(例: "D:\MyExcelFiles*.PDF")。ディレクトリ全体を指定する場合、/S がディレクトリ全体とオリジナルファイルの拡張子を指定していることを確認します(例: "D:\MyExcelFiles*.DOC")。</p> <p>このスイッチは、/G スイッチが使用されている場合無視されます。</p>
/C #	<p>対象ファイルのファイルタイプです。対象ファイルのパスは、/T または/G スイッチで指定されます。このスイッチは、これらのファイルのファイルタイプを指定します。</p> <p>有効な値については、ファイルタイプ定数の表を参照してください。</p>
/M #	<p>使用する変換方式を指定します。次の値が有効です。</p> <p>1 = MS Excel 2 = 'Convert XLS' (デフォルト値)</p> <p>このスイッチは、'Convert XLS'方式を使用する場合には不要です。</p> <p>値の選択に関する詳細は、「変換方式」を参照してください。</p>
/G	<p>オリジナルのフォルダにファイルを保存します。オリジナルファイルと同じフォルダに変換したファイルを置くには、/T の代</p>

	<p>わりにこのスイッチを使用します。同じフォルダ内で1つのファイルの変換を指定した場合は使用できません。代わりに/Tスイッチを使用します。</p>
/N" {Sheet^Range^DelimChar}"	<p>Excel ファイルから Excel ファイルに変換する場合にのみ使用します。ここでは、変換するシート、範囲、使用するデリミタ文字/区切り文字を指定します。このパラメータの構文は重要で、これら3つの指定内容はキャレット文字"^"で区切ります。シート、範囲、デリミタ文字/区切り文字を指定しないと、デフォルトですべてのシート、すべての範囲、デリミタ文字としてカンマが指定されます。このパラメータは必ず二重引用符で囲みます。</p> <p>すべてのシートを指定するには、"*"または""を使用します。シート名または番号を使用することもできます。番号を使用する場合、シートの範囲を指定できます(例: "1,4,10-20"および"4-10,9"など)。範囲とデリミタ文字はオプションです。</p> <p>たとえば、区切り文字にタブ(ASCIIの10進値では9)を使用して、"Apples"と"Oranges"というシートの"A2:B20"の範囲を指定する場合、構文は次のようになります。</p> <p>/N"Apples,Oranges^A2:B20^9"</p>
/V	<p>詳細モードです。変換の進行状況を表すメッセージボックスを表示するには、このスイッチを指定します。/Lも参照してください。</p>
/R	<p>/Sスイッチで指定されたサブフォルダ全体のファイルを検出、実行します。再帰的サブディレクトリです。ディレクトリのファイル全体を処理する場合、このスイッチを追加できます。ディレクトリ全体の変換の選択については、/S、/T および/Gを参照してください。</p>
/L{File}	<p>ログファイルのパスおよび名前です(例: d:\mylogs\WCE.LOG)。このスイッチを指定すると、指定したパスと名前のログファイルが作成され、変換結果が記録されます。/Vも参照してください。</p>
/B{File}	<p>エラーが発生した場合にのみ、ログファイルを変換ジョブとして保存してください。これは、問題のあるファイルを後から処理する場合や、他の方法で処理する場合に有効です。/Bは/Lとは異なります。/Bで作成されるファイルには、変換ジョブファイルでは認識できない不要なコメントは含まれないためです。ジョブとして読み込めるように、.SIIファイルタイプで保存します。</p>
/U	<p>1つのXLSファイルの複数シートを変換する場合、/Uスイッチで1つのファイルではなく、複数のファイルを作成します。</p>
/W{PasswordToOpenOriginalFile(s)}	<p>オリジナルファイルを開くパスワードです。</p>
/X{PasswordToWriteToOriginalFile(<p>オリジナルファイルへの書き込みを許可するパスワードです。</p>

s)}	
/Y{PasswordToOpenTargetFile(s)}	対象ファイルを開くパスワードです。
/Z{ PasswordToWriteToTargetFile(s)}	対象ファイルへの書き込みを許可するパスワードです。
/A	'Convert XLS'変換方式(/M2)を使用して XLS からテキスト(Unicode または 8 ビット ASCII)に変換する場合、オプションとして列の自動調整を解除できます。デフォルトで行われる自動調整では、ワークシートのすべての列のサイズがテキストに合わせて変更されます。
[/H]	'Convert XLS'変換方式(/M2)を使用して XLS から他のフォーマットに変換する場合、「MS Excel」変換方式のように、オプションで式と値を含めるよう指定します。
/P #	特殊処理の識別子。オリジナルソースファイルに適用する特殊処理を'Convert XLS'に伝える整数です。詳細は、「特殊処理タスクの指定」を参照してください。
/1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}	「特殊処理タスクの指定」を参照してください。追加パラメータの 1 から N の番号は、実行される「特殊タスク」によって必要になる場合があります。

すべてのコマンドラインスイッチ

次も参照してください。

変換ジョブの指定

変換タスクの指定

特殊処理タスクの指定

例: 変換

次の例は、コマンドラインパラメータの使用方法を理解するのに大変便利です。以下の例から選択し、必要に応じて変更を加えます。

注意: 最初に詳細(/V)スイッチを使用し、変換の状態を確認することをお勧めします。

追加の注意事項: /S{Original File}には、MS Excel で開くことができるファイルタイプなら、どれでもオリジナルファイルとして指定できます。

1 枚のシートを Excel から CSV、TXT、HTML などへ変換

例 1: MS Excel 変換方式を用いて、XLS ファイル D:¥XLSFiles¥B.XLS (シート名は"LastSheet")を CSV ファイル D:¥Output¥B.CSV に変換するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /M2 /SD:¥XLSFiles¥B.XLS /N"LastSheet" /T D:¥Output¥B.CSV /C6
```

'Convert XLS'変換方式を用いて同じことを行うには、以下を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /M2 /SD:¥XLSFiles¥B.XLS /F-4143 /N"LastSheet" /T D:¥Output¥B.CSV /C6
```

/Sと/Tスイッチは、それぞれオリジナルと対象ファイルを指定します。/Cスイッチは、Excelで開けるファイルをCSVファイルタイプに変換するよう伝えます。

ファイル定数/F# および/C#に使用するルックアップテーブルは、ファイルタイプを別のタイプに変更する上で非常に重要です。サポートされるすべてのファイルタイプ定数一覧は、「Excel変換ファイルタイプ定数」を参照してください。

例 2: 次のサンプルでは、途中までは同じですが、ログファイルが作成され、確認画面を表示させる詳細モード(/V)が指定されます。次回の実行のログは同じファイルに記されます。前回の実行のログは変更されず、新しい情報が追加されません。

```
ConvertXLS.EXE /SD:¥XLSFiles¥B.XLS /N"LastSheet" /T D:¥Output¥B.CSV /C6 /L  
C:¥ResultsFolder¥Logs¥XLSC.LOG /V
```

XLSからHTMLに変換するには、上の例で/C6を/C44に変えます。出力対象ファイル名にファイルタイプを反映してもかまいません。

XLSからUnicodeに変換するには、上の例で/C6を/C42に変えます。こちらも、出力対象ファイル名にファイルタイプを反映してもかまいません。

XLSを別のファイルタイプに変換するには、適切なExcel変換ファイルタイプ定数を見つけ、上の例の/C6スイッチを変更します。こちらも、出力対象ファイル名にファイルタイプを反映してもかまいません。

数枚のシートをExcelからCSV、TXT、HTMLなどへ変換

例 1(名前で指定): XLSファイルD:¥XLSFiles¥B.XLS(シート名は"LastSheet"、"FirstSheet"、"MiddleSheet")をCSVファイルD:¥Output¥B.CSVに変換するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /SD:¥XLSFiles¥B.XLS /N"FirstSheet,LastSheet,MiddleSheet" /T D:¥Output¥B.CSV /C6
```

/Sと/Tスイッチは、それぞれオリジナルと対象ファイルを指定します。/Cスイッチは、Excelで開けるファイルをCSVファイルタイプに変換するよう伝えます。

この例が終了すると、次のファイルが作成されます。

```
D:¥Output¥B_FirstSheet.CSV  
D:¥Output¥B_MiddleSheet.CSV  
D:¥Output¥B_LastSheet.CSV
```

例 2(番号で指定): FirstSheet、MiddleSheet、LastSheetにそれぞれ1、2、4と番号が振られている場合、次のように、/N"1-2,4"で同じ結果が得られます。

```
ConvertXLS.EXE /SD:¥XLSFiles¥B.XLS /N"1-2,4" /T D:¥Output¥B.CSV /C6
```

しかし、この場合、出力ファイル形式は次のようになります。

D:¥Output¥B_1.CSV

D:¥Output¥B_2.CSV

D:¥Output¥B_4.CSV

ファイル定数/**C**#に使用するルックアップテーブルは、ファイルタイプを別のタイプに変更する上で非常に重要です。サポートされるすべてのファイルタイプ定数一覧は、「*Excel 変換ファイルタイプ定数*」を参照してください。

例 3(すべてのシートを指定): XLS ファイル D:¥XLSFiles¥B.XLS(すべてのシート)を CSV ファイル D:¥Output¥B.CSV に変換するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /SD:¥XLSFiles¥B.XLS /N"*" /T D:¥Output¥B.CSV /C6
```

前回の例と違う点は、**/N** スイッチのみです。すべてのシートを指定するには、ワイルドカード“*”を使用します。ワークブック B.XLS にはシートが 4 枚しかないので、結果は、次のように**/N"1-4"**を使用した場合と同じです。

```
ConvertXLS.EXE /SD:¥XLSFiles¥B.XLS /N"1-4" /T D:¥Output¥B.CSV /C6
```

フォルダ全体のファイルを変換

例 1(Excel ファイル、サブフォルダ): フォルダ全体の Excel ファイル D:¥XLSFiles¥*.XLS(シート番号 1)を D:¥Output¥フォルダに CSV ファイルとして変換するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /SD:¥XLSFiles¥*.XLS /N"1" /T D:¥Output¥*.CSV /C6 /R
```

/Sと**/T** スイッチは、それぞれオリジナルと対象ファイルを指定します。**/C** スイッチは、Excel で開けるファイルを CSV ファイルタイプに変換するよう伝えます。**/R** スイッチは、追加のファイルをサブフォルダでも探すよう伝えます。**/N"1"**は、番号 1 のシート(通常ワークブックの最初のシート)を 1 枚指定します。

例 2(Excel ファイル、オリジナルと同じフォルダに保存): 上記の例1を変更して、作成されるファイルをオリジナルと同じフォルダに保存できます。次のように、**/G** スイッチを指定して、**/T** スイッチを削除します。

```
ConvertXLS.EXE /SD:¥XLSFiles¥*.XLS /N"1" /G /C6 /R
```

CSV を XLS ファイルに変換

/S{Original File} スイッチには、MS Excel で開くことができるファイルなら、どれでも指定できます。この例では、CSV ベースのファイル(テキストカンマ区切り)を Excel ファイルに保存することからはじめます。異なる**/C**#スイッチを指定すれば、Excel だけでなく、あらゆるファイルタイプを保存できます(「*Excel 変換ファイルタイプの定数*」を参照)。

例 1(CSV から XLS): フォルダ(とサブフォルダ)全体の CSV ファイル D:¥CSVFiles¥*.CSV を D:¥Output¥フォルダに XLS ファイルとして変換するには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /SD:¥CSVFiles¥*.CSV /T D:¥Output¥*.XLS /C-4143 /R

/S と/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象ファイルを指定します。/C スイッチは、Excel で開けるファイルを CSV ファイルタイプに変換するよう伝えます。/R スイッチは、オリジナルフォルダとサブフォルダで CSV ファイルを探すよう伝えます。

例: Excel の特殊処理

次の例は、コマンドラインパラメータの使用方法を理解するのに大変便利です。次の例から選択し、必要に応じて変更を加えます。

最初に詳細(/V)スイッチを使用し、変換の状態を確認することをお勧めします。

P101 指定したシートのデータを同じまたは別の XLS ファイルにコピー

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
101	(XLS) 指定したシートのデータを同じまたは別の XLS ファイルにコピーする。1つのシートに多くのシートのデータを追加、連結するのに使用する。	/1 = sOriginalSheet (名前または番号) /2 = bCopyFormula ("TRUE"または"FALSE") /3 = bCopySheetName ("TRUE"または"FALSE") /4 = bCopyFromSpecifiedRange ("TRUE"または"FALSE") /5 = sSpecifiedRangeToCopyFrom /6 = sTargetSheet (名前または番号) /7 = bCopyToSpecifiedRange ("TRUE"または"FALSE") /8 = sSpecifiedRangeToCopyTo

この特殊処理で、特定のデータ(数値/式)を、あるワークシートから同じまたは異なるワークブック内の別のシートにコピーできます。

注意: Excel ファイルのフォルダ全体を指定する場合、そのデータを1つのシートに連結/追加できます。

特殊パラメータの詳細

/1{sOriginalSheet}は、データのコピー元のシート名または番号を指定します。

/2{bCopyFormula}は、ワークシートから式や値をコピーするかどうかを指定するのに使用します。式をコピーするには"TRUE"を、値をコピーするには"FALSE"を使用します。

/3{bCopySheetName}では、新しく作成するシートにオリジナルと同じ名前を付ける場合、"TRUE"に設定します。bCopySheetName は、オリジナルファイル(/S)とは異なる対象ファイル(/T)を指定し、新しいワークブックを作成する場合にのみ true になります。これは、ワークブックファイル(XLS)のシートには、一意の名前しか付けられないためです。一般的に、このパラメータは、sOriginalSheet でシートを番号で指定した場合に使用します。

/4{bCopyFromSpecifiedRange}では、sSpecifiedRangeToCopyFrom パラメータを使用する場合、"TRUE"に設定します。そうしない場合は、"FALSE"に設定します。"FALSE"に設定すると、使用している範囲全体がコピーされます。

/5{sSpecifiedRangeToCopyFrom}は、データをコピーするシートの範囲を選択するのに使用します。一般的な Excel の構文が使用できます。たとえば、「A1:B10」、「J5:K20」などです。ここが空白の場合、ワークシートで使用されているすべての範囲がコピーされます。

/6{sOriginalSheet}は、データのコピー先のシート名または番号を指定します。

/7[bCopyFromSpecifiedRange]では、sSpecifiedRangeToCopyTo パラメータを使用する場合、“TRUE”に設定します。そうしない場合は、“FALSE”に設定します。“FALSE”に設定すると、A1 のセルからデータが始まります。

/8[sSpecifiedRangeToCopyTo]は、対象シート sTargetSheet でデータをどこから開始するかを指定するのに使用します。一般的な Excel の構文が使用できます。たとえば、「A1:B10」、「J5:K20」などです。このパラメータが空白の場合、A1 のセルから始まります。コピー元の範囲より小さい範囲を指定すると、データの一部が削除されます。既存データの下にデータをコピーする場合、このパラメータを“below”に設定します。既存データの右にデータをコピーする場合、このパラメータを“right”に設定します。

ヒント: コピー先の範囲を限定せず、データのコピーを開始する場所を指定するには、1 つのセルを指定します (例: “B10”)。ここで指定したセルからすべてのデータのコピーが始まります。

★例:

例 1: 同じワークブック内ですべての値を別のシートにコピー★

★不要と思われる。★

例 1: 同じワークブック内ですべての値を別のシートにコピー

ワークブック“D:\XLSFiles\A.XLS”の“Sheet1”で使用されている範囲全体の値を同じワークブックの“Sheet2”にコピーするには、以下の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:\XLSFiles\A.XLS" /T"D:\XLSFiles\Account1.XLS" /P101 /1"Sheet1" /6"Sheet2"
```

注意: FALSE のブールパラメータ(TRUE/FALSE)を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/S と/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

例 2: 別のワークブックに指定した範囲の式をコピー

ワークブック“D:\XLSFiles\A.XLS”の“Sheet2”の特定の範囲の式を、ワークブック“D:\XLSFiles\B.XLS”の“Sheet3” (セル J10 からコピーを開始)にコピーするには、以下の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:\XLSFiles\A.XLS" /T"D:\XLSFiles\B.XLS" /P101 /1"Sheet2" /2TRUE /4TRUE /5B5:K10 /6"Sheet3" /7TRUE /8J10
```

最初に詳細(/V)スイッチを使用し、変換の状態を確認することをお勧めします。

例 3: フォルダにあるワークブックのシートのデータを 1 枚のシートに追加

“D:\XLSFiles\”フォルダにあるすべてのワークブックの“Sheet1”で使用されている範囲の式を、ワークブック“D:\XLSFiles\Target.XLS”の“Sheet1” (既存データの下にデータを追加)にコピーするには、以下の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:\XLSFiles\*.XLS" /T"D:\Output\Target.XLS" /P101 /1"Sheet1" /2TRUE /6"Sheet3" /7TRUE /8below
```

既存データの右にデータをコピーする場合、/8below を/8right に変更します。

最初に詳細(/V)スイッチを使用し、変換の状態を確認することをお勧めします。

P102 シート全体を同じまたは新規の XLS ファイルにコピー

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
102	シート全体を同じまたは新規の XLS ファイルにコピーする。	/1 = sOriginalSheet (名前または番号) /2 = sSheetBefore (名前または番号) /3 = sSheetAfter (名前または番号) /4 = lActionOnDuplicate (/5 = sTargetSheetRename

この特殊処理では、ワークシート全体を同じまたは新規のワークブックにコピーできます。

特殊パラメータの詳細

/1{sOriginalSheet}: コピーするシート名または番号を指定します。

/2{sSheetBefore}: このシートの前にシートがコピーされます (名前または番号)。このパラメータが "firstfirst" の場合、新しいシートは同じワークブックの最初になります。

/3{sSheetAfter}: このシートの後にシートがコピーされます (名前または番号)。このパラメータが "lastlast" の場合、新しいシートは同じワークブックの最後になります。

/4{lActionOnDuplications}: シート名が重複している場合の処理を指定します。シート名の重複は、**sOriginalSheet** がすでに対象ファイルに存在する場合発生します。0=シートをコピーし、新規のシートに似たような別の名前を付ける。1=既存シートを上書きする。2=シートを処理せず、コピーしない。3=重複が見つかった場合は処理を中止する。

/5{sTargetSheetRename}: シートを 1 枚コピーする場合、このパラメータを使用してシート名を指定できます。名前を変更しない場合は空白のままにします。

例 1: シート全体をワークブックの最後にコピー

この例では、同じワークブックの最後に新しいシートを作成し、ワークブック "D:\¥XLSFiles¥B.XLS" の "Sheet1" を、"Sheet1Renamed" という名前でコピーする方法を示します。すでに "Sheet1Renamed" という名前のシートが存在する場合、似たような別の名前を付けてコピーします。次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:\¥XLSFiles¥B.XLS" /T"D:\¥XLSFiles¥B.XLS" /P102 /1"Sheet1" /3lastlast /40 /5"Sheet1Renamed"
```

注意: FALSE のブールパラメータ (TRUE/FALSE) を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/S と /T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

例 2: 新しいワークブックにワークシート全体をコピー

ワークブック "D:\¥XLSFiles¥B.XLS" の "Sheet1" を、新しいワークブック "D:\¥XLSFiles¥C.XLS" の "Summary" というシートの前に、"CopyOfSheet1" という名前でコピーするには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:\XLSFiles\B.XLS" /T"D:\XLSFiles\C.XLS" /P102 /1"Sheet1" /2Summary /40 /5"CopyOfSheet1"
```

注意: FALSE のブールパラメータ(TRUE/FALSE)を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/Sと/Tスイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は異なるワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P103 1枚または指定した範囲のワークシートを削除

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
103	1枚または指定した範囲のシートを削除する。	/1 = sSheetStart(名前または番号) /2 = sSheetEnd(名前または番号) /3 = sSheetDeleteAllExceptThisOne(名前または番号)

この特殊処理では、1枚または数枚のワークシートを削除できます。

特殊パラメータの詳細

/1{sSheetStart}: シートを1枚削除するか、削除するシートの範囲の始まりを指定する場合に使用します。注意: 範囲指定した番号も削除対象です。つまり、sSheetStartも削除されます。

/2{sSheetEnd}: 削除するシートの範囲の終わりを指定する場合に使用します。注意: 範囲指定した番号も削除対象です。つまり、sSheetEndも削除されます。

/3{sSheetDeleteAllExceptThisOne}: ワークブックに残す最後のシートを指定します。他のシートはすべて削除されます。このパラメータを指定しない場合、/1{sSheetStart}を指定する必要があります。

追加の注意事項: この特殊処理は、1つのワークブックまたはフォルダ(およびサブフォルダ)全体のワークブックの削除にも使用できます。ワークブックにはシートを最低1枚は残す必要があります。つまり、ワークブックのすべてのシートを削除することはできません。

例 1: ワークブックからシートを1枚削除

ワークブック"D:\XLSFiles\C.XLS"の"Sheet2"を削除するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:\XLSFiles\C.XLS" /T"D:\XLSFiles\C.XLS" /P103 /1"Sheet2"
```

注意: FALSE のブールパラメータ(TRUE/FALSE)を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/Sと/Tスイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

例 2: 1つのワークブックから複数のシート削除

ワークブック"D:\XLSFiles\A.XLS"の"Sheet1"から"Sheet2"までを削除するには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S"D:¥XLSFiles¥A.XLS" /T"D:¥XLSFiles¥A.XLS" /P103 /1"Sheet1" /2"Sheet2"

注意: FALSE のブールパラメータ(TRUE/FALSE)を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/Sと/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

例3: 指定した1枚のシートを除いて、ワークブックのシートをすべて削除する

ワークブック"D:¥XLSFiles¥B.XLS"の"Sheet2"のシートを除いたすべてのシートを削除するには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S"D:¥XLSFiles¥B.XLS" /T"D:¥XLSFiles¥B.XLS" /P103 /3"Sheet2"

注意: FALSE のブールパラメータ(TRUE/FALSE)を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/Sと/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

例4: 複数のワークブックから複数のシートを削除

"D:¥XLSFiles¥"にあるすべてのワークブックの"Sheet1"から"Sheet2"までを削除するには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S"D:¥XLSFiles¥*.XLS" /T"D:¥XLSFiles¥*.XLS" /P103 /1"Sheet1" /2"Sheet2"

注意: FALSE のブールパラメータ(TRUE/FALSE)を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/Sと/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。/R スイッチを使用して、サブフォルダを指定することもできます。

P104 特定の場所に新しいシートを追加

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
104	場所を指定して新しいシートをワークブックに追加する。	/1 = sSheetToAdd(名前) /2 = sSheetBefore(名前または番号) /3 = sSheetAfter(名前または番号) /4 = bOverwriteExisting("TRUE"または"FALSE")

この特殊処理では、新しいワークシートを1つまた複数のワークブックに追加できます。

特殊パラメータの詳細

/1{sSheetToAdd}: 追加するシートの名前です。必須ではありません。

/2{sSheetBefore}: このシートの前にシートが追加されます(名前または番号)。sSheetBefore が"firstfirst"の場合、ワークブックの最初にシートが追加されます。

/3[sSheetBefore]: このシートの後にシートが追加されます(名前または番号)。sSheetAfter が“lastlast”の場合、ワークブックの最後にシートが追加されます。

/4[bOverwriteExisting]: sSheetToAdd がすでにあり、このパラメータが“TRUE”に設定されている場合、新規の空のワークシートが sSheetToAdd を上書きします。このパラメータが“FALSE”に設定されている場合、sSheetToAdd がすでに存在していてもなにも起こりません。

追加の注意事項: sSheetBefore または sSheetAfter のどちらか 1 つだけを設定する必要があります。sSheetBefore または sSheetAfter が指定されない場合、新しいシートは最後になります。

例 1: ワークブックにシートを 1 枚追加

ワークブック“D:¥XLSFiles¥C.XLS”に“MyNewSheet”という名前の新しいシートを追加する場合、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:¥XLSFiles¥C.XLS" /T"D:¥XLSFiles¥C.XLS" /P104 /1"MyNewSheet" /4TRUE
```

注意: FALSE のブールパラメータ(TRUE/FALSE)を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/S と/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

この例では、“MyNewSheet”がすでに存在していても、新しい空のシートに上書きされるので注意してください。また、/2 および/3 で場所を指定していないので、新しいシートはワークブックの最後になります。

例 2: ワークブックの指定したシートの前にシートを 1 枚追加

ワークブック“D:¥XLSFiles¥C.XLS”の“MyNewSheet”という名前のシートの直前に“NewestSheet”という名前の新しいシートを追加する場合、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:¥XLSFiles¥C.XLS" /T"D:¥XLSFiles¥C.XLS" /P104 /1"NewestSheet"  
/2"MyNewSheet" /4TRUE
```

注意: FALSE のブールパラメータ(TRUE/FALSE)を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/S と/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

この例では、“NewestSheet”がすでに存在していても、新しい空のシートに上書きされるので注意してください。

例 3: 1 枚のシートを複数のワークブックの最初に追加

“D:¥XLSFiles¥”にあるすべてのワークブックに“FirstSheet”という名前の新しいシートを追加する場合、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:¥XLSFiles¥*.XLS" /T"D:¥XLSFiles¥*.XLS" /P104 /1"FirstSheet" /2firstfirst /4TRUE
```

注意: FALSE のブールパラメータ(TRUE/FALSE)を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/S と/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

この例では、“LastSheet”がすでに存在していても、新しい空のシートに上書きされ、ワークブックの最初のシートとなるので注意してください。

P105 ワークブック内でシートを移動

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
105	ワークブック内でシートの位置を移動する。	/1 = sSheetToMove (名前または番号) /2 = sSheetBefore (名前または番号) /3 = sSheetAfter (名前または番号)

この特殊処理では、同じワークブック内でワークシートを移動できます。

特殊パラメータの詳細

/1[sSheetToMove]: 移動するシートの名前です。必須です。

/2[sSheetBefore]: このシートの前にシートが移動されます (名前または番号)。sSheetBefore が “firstfirst” の場合、ワークブックの最初にシートが移動します。

/3[sSheetAfter]: このシートの後にシートが移動されます (名前または番号)。sSheetAfter が “lastlast” の場合、ワークブックの最後にシートが移動します。

追加の注意事項: sSheetBefore または sSheetAfter のどちらか 1 つだけを設定する必要があります。sSheetBefore または sSheetAfter が指定されない場合、新しいシートは最後になります。

例 1: 指定したワークシートの前にシートを移動

“MyNewSheet”をワークブック“D:¥XLSFiles¥C.XLS”の“Sheet3”の前に移動するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:¥XLSFiles¥C.XLS" /T"D:¥XLSFiles¥C.XLS" /P105 /1"MyNewSheet" /2"Sheet3"
```

注意: FALSE のブールパラメータ (TRUE/FALSE) を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/S と /T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

例 2: ワークシートを先頭に移動

“MyNewSheet”をワークブック“D:¥XLSFiles¥C.XLS”の“Sheet3”の前に移動するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:¥XLSFiles¥C.XLS" /T"D:¥XLSFiles¥C.XLS" /P105 /1"MyNewSheet" /2firstfirst
```

注意: FALSE のブールパラメータ (TRUE/FALSE) を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/S と /T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P106 ワークシート名の変更

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
106	シート名を変更する。	/1 = sSheetToRename (名前または番号) /2 = sNewSheetName (名前または番号)

この特殊処理では、既存のワークシートの名前を変更できます。

特殊パラメータの詳細

/1{sSheetToRename}: 名前を変更するシート名です。必須です。

/2{sNewSheetName}: 新しいシート名です。必須です。

例 1: ワークシート名の変更

“MyNewSheet”をワークブック“D:¥XLSFiles¥C.XLS”の“OldSheetNow”の前に作成し、名前を変更するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:¥XLSFiles¥C.XLS" /T"D:¥XLSFiles¥C.XLS" /P106 /1"MyNewSheet"  
/2"OldSheetNow"
```

注意: FALSE のブールパラメータ(TRUE/FALSE)を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/S と/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P107 特定の行または列を削除

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
107	特定の行または列を削除する。	/1 = sSheetStart (名前または番号) /2 = sToDelete (番号) /3 = bDeleteColumns ("TRUE"または"FALSE")

この特殊処理では、既存のワークシートから特定の行または列を削除できます。

特殊パラメータの詳細

/1{sSheetStart}: 変更するシートの名前です。必須です。

/2{sToDelete}: 削除する列や行です。必須です。

/3{bDeleteColumns}: “TRUE”に設定すると列が削除され、“FALSE”に設定すると行が削除されます。必須です。

例 1: ワークシートから 6-8、10 列を削除

ワークブック“C:¥ExcelFiles¥Summary.XLS”にある Sheet1 という名前のワークシートの 6-8、10 行を削除するには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S"C:¥ExcelFiles¥Summary.XLS" /T"C:¥ExcelFiles¥Summary.XLS" /P107 /1"Sheet1" /2 6-8,10 /3 FALSE

/Sと/Tスイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P108 セルの表示形式を変更

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
108	特定のセルの表示形式(例: 標準、通貨など)を変更する。 。	/1 = sSheetStart(名前または番号) /2 = sRange(番号) /3 = sNewFormat(名前) /4 = INewFormat(番号)

この特殊処理では、数値データを保持する特定のセルに適用された表示形式を変更できます。

特殊パラメータの詳細

/1{sSheetStart}: 変更するシート名です。必須です。

/2{sRange}: 表示形式を変更するセルの範囲です。必須です。

/3{sNewFormat}: 適用されている表示形式の文字列です。必須です。

/4{INewFormat}: 適用されている表示形式の数値指標です。必須です。

次の表は、それぞれのフォーマットタイプの/3 および/4 スイッチ一覧です。

フォーマット	/3 スイッチ (sNewFormat)	/4 スイッチ (INewFormat)
テキスト	@	0
標準	GENERAL	1
数値	#,##0.00	2
通貨	\$#,##0.00	3
会計	(\$* #,##0.00_);_(\$*(#,##0.00);_(\$* "-"??_);_(@_)	4
日付	m/d/yyyy	5
時刻	[\$-409]h:mm:ss AM/PM;@	6
パーセンテージ	0.00%	7
分数	# ???/???	8
指数	0.00E+00	9

例 1: 特定の範囲のセルに「通貨」の表示形式を適用

"C:¥ExcelFiles¥Summary.XLS"の特定の範囲のセルに通貨表示形式を適用するには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S"C:¥ExcelFiles¥Summary.XLS" /T"C:¥ExcelFiles¥Summary.XLS" /P108 /1"Sheet1" /2 A19:F19 /3 \$#,##0.00 /4 3

/Sと/Tスイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P109 セルのコンテンツを検索および置換

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
109	スプレッドシート内のセルの内容を検索し置換する。	/1 = sSheet – 変更するワークシート(名前または番号) /2 = sSearchFor – 変更するテキスト /3 = sReplaceWith – 置換するテキスト /4 = bCaseSensitive – “TRUE”または“FALSE” /5 = bLookAtPart – “TRUE”または“FALSE” /6 = bMatchByte – “TRUE”または“FALSE”

この特殊処理では、セル内のテキストを検索し、他のテキストに置換できます。

特殊パラメータの詳細

/1{sSheet}: 変更するシート名です。必須です。

/2{sSearchFor} 検索する文字列です。必須です。

/3{sReplaceWith}: 置換する文字列です。必須です。

/4{bCaseSensitive}: “TRUE”にすると大文字小文字を区別し、“FALSE”では無視します。

/5{bLookAtPart}: “TRUE”にすると、検索文字列が見つければ置換し、“FALSE”に設定すると、セルの内容と完全に一致した場合のみ置換します。

/6{bMatchByte}: “TRUE”にすると半角全角を区別し、“FALSE”では無視します。

例1 「Marine Science」を検索し、「Oceanography」に置換

Excel スプレッドシート“C:¥Courses.xls”内で「Marine Science」を検索し、「Oceanography」に置換するには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S"C:¥Courses.XLS" /T"C:¥Output¥CoursesRevised.XLS" /P109 /1"Sheet1" /2 Marine Science /3 Oceanography /4 TRUE /5 TRUE /6 FALSE

/Sと/Tスイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。特殊処理 109 には次の引数が付きます。/1: 変更対象に“Sheet1”を指定します。/2: 検索する文字列を定義します。引用符は必要ありません。/3: 置換文字列を定義します。/4: 大文字小文字の区別を指定します。/5: 検索文字列が見つかった箇所を問わず置換します。/6: 半角全角の区別を指定します。

P110 シートデータの入れ替え

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
-----	----	--

110	シートを入れ替える。 行を列に、列を行に 変換する。	/1 = sSheet – 入れ替えるワークシート
-----	----------------------------------	---------------------------

この特殊処理では、セル内のテキストを検索し、他のテキストに置換できます。

特殊パラメータの詳細

/1{sSheet}: 入れ替えるシート名です。必須です。

例1 Courses.XLS の Sheet 1 を入れ替える

Excel スプレッドシート“C:¥Courses.xls”の Sheet1 を入れ替えるには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"C:¥Courses.XLS" /T"C:¥Output¥CoursesRevised.XLS" /P109 /1"Sheet1"
```

/S と/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。特殊処理 110 には次の引数が付きます。/1: 入れ替えるシートに“Sheet1”を指定します。

P111 XLS ファイルのパスワードを変更または削除

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
111	(XLS)XLS ファイル のパスワードを変更 または削除する。	/1 = オリジナルファイルを開くパスワード /2 = オリジナルファイルに書き込むパスワード /3 = 対象ファイルを開くパスワード /4 = 対象ファイルに書き込むパスワード

この特殊処理では、セル内のテキストを検索し、他のテキストに置換できます。他のコマンドライン操作のために Excel ワークブックの開き方を指定する場合は、/W-/Z スイッチを参照してください。

特殊パラメータの詳細

/1{オリジナルファイルを開くパスワード}

/2{オリジナルファイルに書き込むパスワード}

/3{対象ファイルを開くパスワード}

/4{対象ファイルに書き込むパスワード}

例1 ワークブック Courses.XLS を開くパスワードを変更

ファイルを開くパスワードを変更するには、オリジナルと対象ファイルに同じファイルを指定します。パスワードを“Apples”から“Oranges”に変更する場合、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"C:¥Courses.XLS" /T"C:¥Output¥CoursesRevised.XLS" /P111 /1Apples /3Oranges
```

例: CSV の特殊処理

P201 (CSV) フィールドを引用符で囲む

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
201	CSV ファイル、フィールドを引用符で囲む。	なし

この特殊処理は、CSV ファイルのそれぞれのフィールドを引用符で囲むときに使用します。たとえば、この処理を行う前のファイルは、次のようになります。

Data1,Data2,Data3

Data1,Data2,Data3

この処理を行うと、次のようになります。

"Data1","Data2","Data3"

"Data1","Data2","Data3"

例: フィールドを引用符で囲む

ファイル"D:\¥CSVFiles¥Simple.CSV"内で、それぞれのデータフィールドをスペースで囲むには、次の構文を使用します。★原典では with spaces とありますが、with quotation marks の間違いでしょうか?原典に忠実に「スペースで」と訳しました。★

ConvertXLS.EXE /S"D:\¥CSVFiles¥Simple.CSV" /T"D:\¥CSVFiles¥Simple.CSV" /P201

/Sと/Tスイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P202 (CSV) フィールドをスペースで囲む/パディング

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
202	CSV ファイル、フィールドをスペースで囲む/パディングする。	なし

この特殊処理は CSV ファイルのそれぞれのフィールドをスペース()で囲むときに使用します。たとえば、この処理を行う前のファイルは、次のようになります。

Data1,Data2,Data3,Data4

Data1,Data2,Data3,Data4

この処理を行うと、次のようになります。

Data1 , Data2 , Data3 , Data4

Data1 , Data2 , Data3 , Data4

例: フィールドをスペースで囲む

ファイル“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV”内で、それぞれのデータフィールドをスペースで囲むには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /T“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /P202

/Sと/Tスイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P203 (CSV) カンマを別の区切り記号に変更

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
203	(CSV) カンマを別の区切り記号に変更する。	/2 = カンマ","に置換される 10 進法の ASCII 数値。 たとえば、カンマをシャープ"#"変更する場合、/2 35 と指定します。

特殊パラメータの詳細

/2 は、カンマに置換される 10 進法の ASCII 数値です。

追加の注意事項: この特殊処理は、カンマ区切りを別の区切り記号に変更するときに使用します。有効な ASCII 文字 (1-254) であれば指定できます。たとえば、カンマをシャープ"#" (ASCII 35) に変更する場合、この処理を行う前のファイルは次のようになります。

Data1,Data2,Data3,Data4

Data1,Data2,Data3,Data4

この処理を行うと、次のようになります。

Data1#Data2#Data3#Data4

Data1#Data2#Data3#Data4

例: カンマから"#"に区切り記号を変更

ファイル“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV”内で、カンマを“#”記号に変更するには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /T“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /P203 /2 35

/Sと/Tスイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P204 (CSV) 空行の削除

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
204	(CSV) 空行を削除する。	なし

この特殊処理は、CSV ファイルから空行を削除する場合に使用します。空行とは、“,”の間にデータのない行のことです。空白文字はデータとは見なされません。たとえば、この処理を行う前のファイルは、次のようになります。

Data1,Data2,Data3,Data4

” ,

Data1,Data2,Data3,Data4

Data1,Data2,Data3,Data4

この処理を行うと、次のようになります。

Data1,Data2,Data3,Data4

Data1,Data2,Data3,Data4

Data1,Data2,Data3,Data4

例: 空行を削除

ファイル“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV”内で、空の CSV 行をすべて削除するには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /T“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /P204

/S と /T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P205 (CSV) 特定の ROWS を含め、その他をすべて破棄

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
205	CSV、特定の ROWS を含め、その他をすべて破棄する。	/1 = 含める行。他はすべて削除されます。 たとえば、4-20、25、30 行を残す場合、“/1 4-20,25,30”と指定します。

特殊パラメータの詳細

/1 は、残す行を指定します。指定されていない行は削除されます。たとえば、1、9-10、25、30 行を残す場合、“/1 1,9-10, 25,30”と指定します。

例: 特定の列を含める

ファイル“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV”の 1、9-10、25、30 行を残すには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /T“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /P205 /1 1,9-10,25,30

/S と /T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P206 (CSV) 特定の COLUMNS を含め、その他をすべて破棄

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
206	(CSV) 特定の COLUMNS を含め、その他をすべて破棄する。	/1 = 含める列。他はすべて削除されます。 たとえば、4-20、25、30 列を残す場合、"/1 4-20,25,30"と指定します。

特殊パラメータの詳細

/1 は、残す列を指定します。指定されていない列は削除されます。たとえば、4-20、25、30 列を残す場合、"/1 4-20,25,30"と指定します。

例: 特定の列を含める

ファイル"D:\¥CSVFiles¥Simple.CSV"の 4-20、25、30 列を残すには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S"D:\¥CSVFiles¥Simple.CSV" /T"D:\¥CSVFiles¥Simple.CSV" /P206 /1 4-20,25,30

/S と /T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P207 (CSV) 制御文字がある場合に削除

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
207	(CSV) 制御文字がある場合に削除する。	なし

追加の注意事項: 不要な制御文字がデータに含まれている場合があります。この特殊処理を使用して、不要な制御文字を削除できます。もちろん、これには行末のキャリッジリターンや改行は含まれません。

例: 制御文字の削除

ファイル"D:\¥CSVFiles¥Simple.CSV"の制御文字を削除するには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S"D:\¥CSVFiles¥Simple.CSV" /T"D:\¥CSVFiles¥Simple.CSV" /P207

/S と /T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P208 (CSV) 余計なカンマを削除

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
208	(CSV) 余計なカンマを削除する。	なし

追加の注意事項: この特殊処理は、CSV ファイルから余計なカンマを削除する場合に使用します。有効なデータの最後にあるカンマが削除されます。たとえば、この処理を行う前のファイルは、次のようになります。

Data1,Data2,Data3,Data4,,

” ,

Data1,Data2,Data3,Data4,,

Data1,Data2,Data3,Data4

この処理を行うと、次のようになります。

Data1,Data2,Data3,Data4

”

Data1,Data2,Data3,Data4

Data1,Data2,Data3,Data4

Data1,Data2,Data3,Data4

2 行目の 2 列目の空白文字は表示されていませんが、有効なデータです。

例: 余計なカンマを削除

ファイル“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV”の余計なカンマを削除するには、次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /T“D:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /P208

/S と/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

P209 (CSV) フィールドを固定長にパディング

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
209	(CSV) 必要な ASCII 文字を追加してフィールドを固定長にパディングする。 °	/1 = ILength はパディングするフィールドの長さを表します。 /2 = sPadChar は、パディング文字の ASCII 数値です。 /3 = bPadLeft(“TRUE”または“FALSE”)。左にパディングする場合、“TRUE”を設定します。 /4 = IColumn は、パディングする列を表します。

例: フィールド 1-3 に# (ASCII 文字 35) でパディングする

オリジナルファイル C:¥CSVFiles¥Simple.CSV のコピーを作成し、C:¥Files¥SimplyPadded.csv という名前をつけます。24 の長さを指定すると、対象ファイルのフィールド(列) 1-3 にはパディングが加わり、対象ファイルの既存データの右に ASCII 文字 35(#) が付きます。次の構文を使用します。

ConvertXLS.EXE /S“C:¥CSVFiles¥Simple.CSV” /T“C:¥CSVFiles¥SimplyPadded.CSV” /P209 /1 24 /2 35 /3 FALSE /4 1-3

すべてのフィールドにパディングする場合、スイッチ/4 の引数として 0 を使用します。たとえば、/4 0 となります。

例: TXT、DOC、HTM および RTF の操作

P50 (DOC、RTF、HTM、TXT) テキストファイルの追加/連結

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
50	(DOC、RTF、HTM、TXT) テキストファイルを追加/連結する。	なし 特殊処理タイプ定数にはF#を指定する必要があります。

追加の注意事項: この特殊処理で、1 つまたは複数のファイルの内容を他のファイルの最後に追加できます。オリジナルファイル(/S[Original File]で指定)のコピーは、対象ファイル(/T[Target File]で指定)の最後に追加されます。

複数のファイルを追加する場合、オリジナルファイルにワイルドカードを使用していることを確認します (例: *.doc、*.htm、*.txt)。

Excel ワークシートの内容を連結するには、「/P 101 指定したシートデータを同じまたは別の XLS ファイルにコピー」を参照してください。

注意: この特殊処理では、/F#を使用してファイルタイプを指定する必要があります。この特殊処理を使用する場合、オリジナルと対象ファイルは同一である必要があります。

例 1: 1 つのファイルを他のファイルに追加

B.RTF の内容を A.RTF の内容の最後に追加するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:\Files\B.RTF" /T"D:\Files\A.RTF" /P50 /F5
```

例 2: 複数のファイルを一緒に追加

D:\WordDocs\フォルダのすべての MS Word ファイルの内容を D:\Output\Target.DOC に追加するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:\WordDocs\*.DOC" /T"D:\Output\Target.Doc" /P50 /F9
```

/S と /T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のワークブックを指定します。この場合は、同じワークブックです。

再帰サブフォルダで実行するには、/R スイッチを指定します。

P55 (DOC、RTF、HTM、TXT) 空行の削除

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
55	(DOC、RTF、HTM、TXT) 空行を削除する。	なし 特殊処理タイプ定数にはF#を指定する必要があります。

追加の注意事項: この特殊処理は、1 つまたは複数のファイルから空行を削除する場合に使用します。

例 1: 1 つのファイルから空行を削除

D:¥Files¥A.RTF から空行を削除するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:¥Files¥B.RTF" /T"D:¥Files¥B.RTF" /P55 /F5
```

/S と /T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のファイルを指定します。この場合は、同じファイルです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

例 2: 複数のファイルから空行を削除

D:¥Files¥のすべての RTF ファイルから空行を削除し、D:¥Output¥フォルダに保存するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:¥Files¥*.RTF" /T"D:¥Output¥*.RTF" /P55 /F5
```

再帰サブフォルダで実行するには、/R スイッチを指定します。

P56 (DOC、RTF、HTM、TXT) 文字列の検索および置換

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
56	(DOC、RTF、HTM、TXT) 文字列を検索および置換する。	/1 = sTextToFind /2 = TextToReplace 検索するテキスト /3 = bCaseSensitive ("TRUE"または"FALSE")。大文字小文字を区別する場合、"TRUE"を設定します。 特殊処理タイプ定数には/F#を指定する必要があります。

この特殊処理は、1 つのファイルまたはフォルダ全体のファイルのテキストを検索、置換するのに使用できます。

特殊パラメータの詳細

/1{sTextToFind}: 検索するテキストです。必須です。引用符を使用すると、ファイルにある引用符を検索するので、引用符は使用しないでください。引用符は不要です。

/2{sTextToFind}: 置換するテキストです。必須です。置換する文字列に引用符を含める場合を除いて、引用符は使用しないでください。

/3{bCaseSensitive}: /2{sTextToFind}の検索文字列の大文字小文字を区別するには"TRUE"を設定します。

追加の注意事項: 検索と置換文字列に符号や制御文字を使用する必要がある場合、ASCII 文字で指定できます。たとえば、リターン([Enter])を含む文字列を検索する場合、ASCII Char リストボックスから ASCII 文字の[10] LF を選択します。文字列では©10©のように表示されます。[Enter]を ASCII の改行文字([10]LF)のみで検索することもできますが、[Enter]を置換文字列に加えたい場合は、[13]CR と[10]LF の 2 つの ASCII 文字を組み合わせて使用する必要があります。たとえば、検索する文字列「this is a string」のそれぞれの単語の後ろにリターンを加えたい場合、置換文字列は「this ©13© ©10©is ©13© ©10©a ©13© ©10©string」となります。ASCII 文字は ASCII Char リストボックスから選択できます。

「1. First item.」という文字列に置換する場合、「1.」の後ろにはタブが必要です。[9]TAB を選択して、文字列に「©9©」を表示させます。文字列全体は、「1.©9©First item.」となります。

その他の役立つ ASCII 文字は、[32]SPACE です。

注意: FALSE のブールパラメータ(TRUE/FALSE)を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

例 1: 1 つのファイル内で検索および置換

ファイル D:\Files\B.RTF で、“IncorrEctly DONE”という文字列を大文字小文字を区別して検索し、検索結果をすべて “incorrectly done”に置換し、D:\Files\C.RTF に保存するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:\Files\B.RTF" /T"D:\Files\C.RTF" /P56 /F5 /1IncorrEctly DONE /2incorrectly done /3TRUE
```

注意: FALSE のブールパラメータ(TRUE/FALSE)を指定する必要はありません。また、空のパラメータを指定する必要もありません。

/S と/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象ファイルを指定します。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

例 2: 複数のファイルで検索および置換

D:\Files*のすべての RTF ファイルで、“IncorrEctly DONE”という文字列を大文字小文字を区別して検索し、検索結果をすべて “incorrectly done”に置換し、D:\Output*フォルダに保存するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /S"D:\Files\*.RTF" /T"D:\Output\*.RTF" /P56 /F5 /1IncorrEctly DONE /2incorrectly done /3TRUE
```

P75(CSV、TXT)文字の置換

/P#	意味	追加のパラメータ: /1{Parameter1} ... /n{Nth Parameter}
75	(CSV および TXT) 文字は置換するが、引用符の中は無視する。	/1 = sSearchFor /2 = sReplace 特殊処理タイプ定数には/F#を指定する必要があります。

例 1: コロン(ASCII 文字 58)をダッシュ(ASCII 文字 45)に置換

テキストファイル C:\TextFiles\Letter.txt にあるコロン文字(:)をダッシュ(-)に置換するには、次の構文を使用します。

```
ConvertXLS.EXE /F30 /S"C:\TextFiles\Letter.txt" /T"C:\TextFiles\Letter.txt" /P75 /1 58 /2 45
```

注意: ファイルタイプを示す/F は、CSV や TXT などのファイルタイプにかかわらず、/F30 を使用します。

/S と/T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のファイルを指定します。この場合は、同じファイルです。オプションとして、オリジナルと対象ファイルを別々に指定することで、オリジナルファイルを変更しないように設定できます。

ファイルタイプ定数

コマンドラインインタフェースで使用するファイルタイプ定数を説明します。ファイルタイプ定数には 2 つのグループがあります。1 つは「特殊処理」で、もう 1 つは「ファイル変換」です。両方の場合で、/F#および/C#はこれらの定数を使用するコマンドライン引数です。

次も参照してください。

特殊処理ファイルタイプの定数

Excel 変換ファイルタイプの定数

Excel 変換ファイルタイプの定数

注意: **太字**で記されているものは、'Convert XLS' /M2 と MS Excel /M1 変換方式の両方で使用できます。

ファイルタイプ	説明	定数
xIUnicodeText	Unicode テキスト(*.TXT)	42
xITextMSDOS	テキスト(MS-DOS) (*.TXT)	21
xIXML	XML (*.XML)	46
XICSV	カンマ切り (*.CSV)	6
XICSVWindows	カンマ切り Windows (*.CSV)	23
xIHTML	Web ページ (*.HTM, *.HTML)	44
xIWorkbookNormal	Microsoft Excel ワークブック (*.XLS)	-4143
XIAddIn	Microsoft Excel アドイン (*.XLA)	18
XICSVMac	カンマ切り Macintosh (*.CSV)	22
XICSVMSDOS	カンマ切り DOS (*.CSV)	24
XICurrentPlatformText		-4158
xIDBF2	dBase II (*.DBF)	7
xIDBF3	dBase III (*.DBF)	8
xIDBF4	dBase IV (*.DBF)	11
xIDIF	Data Interchange Format (*.DIF)	9
xIExcel2	Microsoft Excel 2.0 ワークシート (*.XLS)	16
xIExcel2FarEast	Microsoft Excel 2.0 ワークシート Far East (*.XLS)	27
xIExcel3	Microsoft Excel 3.0 ワークシート (*.XLS)	29
xIExcel4	Microsoft Excel 4.0 ワークシート (*.XLS)	33

xlExcel4Workbook	Microsoft Excel 4.0 ワークブック(*.XLW)	35
xlExcel5	Microsoft Excel 5.0/95 ワークブック(*.XLW)	39
xlExcel7	Microsoft Excel 7.0/95 ワークブック(*.XLW)	39
xlExcel9795	Microsoft Excel 97-2000 & 5.0/95 ワークブック(*.XLS)	43
xlIntlAddIn	Excel International アドイン	26
XlIntlMacro	Excel International マクロ	25
xlSYLK	SYLK(シンボリックリンク) (*.SLK)	2
xlTemplate	テンプレート(*.XLT)	17
xlTextMac	テキスト Macintosh(*.TXT)	19
xlTextPrinter	テキストプリンタファイル(*.PRN)	36
xlTextWindows	テキスト Windows(*.TXT)	20
xlWJ2WD1		14
xlWK1	Lotus(1-2-3)2.x フォーマット *.WK1	5
xlWK1ALL	Lotus(1-2-3)2.x すべてのフォーマット *.WK1	31
xlWK1FMT	Lotus(1-2-3)2.x FMT フォーマット *.WK1	30
xlWK3	Lotus(1-2-3)3.x FMT フォーマット *.WK3	15
xlWK4	Lotus(1-2-3)4.x フォーマット *.WK4	38
xlWK3FM3	Lotus(1-2-3)3.x および Windows フォーマット*.WK3	32
xlWKS	MS Works フォーマット *.WKS	4
xlWorks2FarEast	MS Works(Far East) フォーマット *.WKS	28
xlWQ1	Quattro Pro for MSDOS フォーマット *.WQ1	34
xlWJ3		40
xlWJ3FJ3		41

次も参照してください。

特殊処理ファイルタイプの定数

特殊処理ファイルタイプの定数

特殊処理のファイルタイプ	定数
テキスト(TXT)	1
MS Word(DOC)	9
HTML(HTM)	4

リッチテキストフォーマット(RTF)	5
LF のみのテキスト(TXT)	2
Unicode/エンコードテキスト(TXT)	6
MS Excel(XLS)	20
カンマ切りファイル(CSV)	30

次も参照してください。

Excel 変換ファイルタイプの定数

付録 A: 変換ジョブおよびログファイルの構造

変換ジョブファイルの読み込み、作成方法

変換ジョブファイルの作成または既存の変換ジョブの変更が必要になる場合があります。そのため、変換ジョブファイル (CJF) の構造についての詳細を説明します。

CJF は ASCII テキストファイルで、拡張子は *.SII です。ファイルのそれぞれの行には、変換タスクが含まれています。この変換タスクは、10 のタブ区切りフィールドで指定されています。このファイルは Notepad で開けます。MS Excel でも開けます。MS Excel のほうが閲覧、編集は簡単です。必ずタブ切りテキストファイルで保存してください。

繰り返しますが、この変換タスクは、次のように 10 つのタブ区切りフィールドで指定されています。

<フィールド 1> <TAB> <フィールド 2> <TAB> ...<フィールド 8> <TAB> <フィールド 9><TAB> <フィールド 10>

フィールド	使用方法
1	<p>全般的な変換オプションです。この文字列のそれぞれの文字は、次のオプションを指定します。</p> <p>"M": 変換方式として、'Convert Excel'に組み込まれた変換ではなく、MS Excel を使用します。"M"を指定すると、MS Excel の使用を指定することになります。それ以外の場合は、Convert Excel に組み込まれたフィルタが使用されます。/M1 コマンドラインスイッチと同じです。</p> <p>"R": フィールド 1 に "R" が含まれている場合、オリジナルのサブフォルダのファイルが変換対象ファイルとなります。/R コマンドラインスイッチと同じです。</p> <p>"G": フィールド 1 に "G" が含まれている場合、対象ファイルはオリジナルと同じフォルダに保存されます。/G スイッチと同じです。</p> <p>"F": 式をエクスポートします。省略すると値をエクスポートします。</p> <p>"U": 複数のシートを変換する場合、複数のファイルを作成します。/U スイッチと同じ</p>

	<p>です。</p> <p>例 1: 'ConvertXLS'変換方式を使用し、サブフォルダは含めず、オリジナルフォルダに保存しないよう指定する場合、"'"を使用します。これは正しい空の文字列です。</p> <p>例 2: MS Excel 変換を使用し、オリジナルファイルのサブフォルダを変換し、オリジナルフォルダに保存しないよう指定する場合、"MR"を使用します。</p> <p>例 3: 'ConvertXLS'変換フィルタを使用し、サブフォルダは含めず、オリジナルフォルダに保存するよう指定する場合、"G"を使用します。</p>
2	<p>追加のパラメータです。次の構文を使用します。</p> <p>SheetsToConvert^RangeToConvert^IDelimitationCharacter</p> <p>たとえば、区切り文字にタブを使用して、"Accounting"と"Billing"というシートの"A5:D20"の範囲を指定する場合、構文は次のようになります。</p> <p>"Accounting,Billing^A5:D20^9"</p>
3	<p>ジョブ番号です。変換ジョブファイルを読み込むと、Convert Excel は適切な番号を振り直します。</p>
4	<p>"C"は変換処理を表し、"S#"は特殊処理を表します。</p>
5	<p>オリジナルファイルパスです (/S スイッチと同じ)。</p>
6	<p>オリジナルファイルタイプ定数です (/F#スイッチと同じ)。</p>
7	<p>オリジナルファイルタイプの拡張子です (MS Word なら*.DOC、テキストなら*.TXT を使用)。</p>
8	<p>対象ファイルパスです (/T スイッチと同じ)。</p>
9	<p>対象ファイルタイプ定数です (/C#スイッチと同じ)。</p>
10	<p>対象ファイルタイプの拡張子です (MS Word なら*.DOC、テキストなら*.TXT を使用)。</p>

変換ジョブファイルフィールドの仕様

ログファイルには、次に示す 2 つのフィールドが追加されます。

フィールド	使用方法
11	ユーザは使用しません。このフィールドは無視します。
12	不具合の原因です。

ログファイルには、2 つのフィールドが追加されます。

付録 B: 言語の変更または追加

言語の変更または追加

Convert Excel では、アプリケーションを表示する言語を、[ファイル]>[言語]で選択できます。ダイアログボックスに表示する言語はすべてそこから選択できます。言語設定を有効にするには、プログラムを再起動します。

言語の追加や変更は、言語ファイルを編集し、言語フォルダに配置するだけです。言語フォルダはインストールフォルダに含まれ、通常は次の場所にあります。

C:\Program Files\Softinterface, Inc\ConvertXLS\Languages\

代表的な言語ファイル名は次のようになります。

Japanese-'Convert XLS'.txt

German-'Convert XLS'.txt

Convert Excel では、言語フォルダのすべてのファイル名を参照し、使用可能な言語ファイルの一覧を作成しているため、ファイル名は大変重要です。言語ファイル名は次の形式になっています。引用符は必須です。

言語名-'Convert XLS'.txt

言語を追加する場合、既存の言語ファイルをコピーし、名前を変更して編集します。アプリケーション内で翻訳が必要なすべての用語は、すでに英語のファイルにあります。希望する言語の翻訳は英語のとりに記す必要があります。言語ファイルは次の形式になっています。

“英語”, “訳語”

例:

“Ok”, “はい”

“Without”, “なし”

“Five pages”, “5 ページ”

英語と訳語のカンマの前後にスペースはありません。次は不適当な使用例です。

“英語”, “訳語”

“Ok”, “はい”

“Without”, “なし”

“Five pages”, “5 ページ”

新しい言語ファイルの作成にご協力いただくと、無料でライセンスを贈呈する場合があります。次のサイトをご覧ください。

http://www.softinterface.com/MD/MD_Languages.htm

既存の言語ファイルへの修正もお待ちしております。

